

洗足学園音楽大学

大学院

2018年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
音楽教育学研究	塚原 健太	1
音楽教育学演習I	金井 公美子	4
音楽教育学演習II	董 芳勝	7
音楽表現研究I	佐藤 昌弘	10
音楽表現研究II	佐藤 昌弘	13
副論文作成研究	那須田 務	16
音楽・音響デザイン特殊研究1	前田 康德	19
音楽・音響デザイン特殊研究2	前田 康德	22
ライブ・エレクトロニクス研究1	宮木 朝子	25
ライブ・エレクトロニクス研究2	宮木 朝子	28
デジタル・オーケストレーション研究1	前田 康德	31
デジタル・オーケストレーション研究2	前田 康德	34
録音・音響特殊研究1	前田 康德	37
録音・音響特殊研究2	前田 康德	40
映像特殊研究1	富永 憲治	43
映像特殊研究2	富永 憲治	46
作曲法特殊研究2	清水 昭夫	49
作曲法特殊研究2	清水 昭夫	52
楽曲分析法特殊研究2	那須田 務	55
アンサンブル特殊研究2	清水 昭夫	58
プロフェッショナル特殊研究I	柳澤 涼子	61
プロフェッショナル特殊研究II	柳澤 涼子	64
オペラ研究1・2	柳澤 涼子	67
アンサンブル研究1	櫻田 亮	70
アンサンブル研究2	櫻田 亮	73
歌曲研究1	柳澤 涼子	76
歌曲研究2	柳澤 涼子	79
合唱指導法研究[木3-4]	相澤 直人	82
プロフェッショナル特殊研究1	吉武 雅子	85
プロフェッショナル特殊研究1	渡部 亨	88
プロフェッショナル特殊研究1	水野 佐知香	91
プロフェッショナル特殊研究1	神谷 百子	94
プロフェッショナル特殊研究1	赤塚 博美	97
プロフェッショナル特殊研究1	松尾 祐孝	100
プロフェッショナル特殊研究2	吉武 雅子	103
プロフェッショナル特殊研究2	渡部 亨	106
プロフェッショナル特殊研究2	神谷 百子	109
プロフェッショナル特殊研究2	松尾 祐孝	112

プロフェッショナル特殊研究3	水野 佐知香	115
プロフェッショナル特殊研究3	松尾 祐孝	118
プロフェッショナル特殊研究3	今田 央	121
プロフェッショナル特殊研究4	松尾 祐孝	124
プロフェッショナル特殊研究4	金子 浩	127
アンサンブル研究1	赤塚 博美	130
作曲・編曲法1	赤塚 博美	133
アンサンブル研究1	吉武 雅子	136
アンサンブル研究1	渡部 亨	139
アンサンブル研究1	水野 佐知香	142
アンサンブル研究1	山澤 洋之	145
アンサンブル研究1	松尾 祐孝	148
アンサンブル研究2	吉武 雅子	151
アンサンブル研究2	渡部 亨	154
アンサンブル研究2	水野 佐知香	157
アンサンブル研究2	山澤 洋之	160
アンサンブル研究2	松尾 祐孝	163
アンサンブル研究2	原 善伸	166
現代曲の奏法と研究1	渡部 亨	169
現代曲の奏法と研究2	渡部 亨	172
打楽器の変遷と奏法の研究1	古川 玄一郎	175
打楽器の変遷と奏法の研究2	古川 玄一郎	178
コンチェルト研究1	江崎 昌子	181
コンチェルト研究2	江崎 昌子	184
オルガンの様式と奏法の研究1	荻野 由美子	187
チェンバロ研究[火5]	上蘭 未佳	190
音楽教育特殊研究1	董 芳勝	193
音楽教育特殊研究2	董 芳勝	196
音楽教育特殊研究3	佐藤 昌弘	199
音楽教育特殊研究4	佐藤 昌弘	202
合奏指導法研究1	渡部 亨	205
合奏指導法研究1	水野 佐知香	208
合奏指導法研究1	神谷 百子	211
合奏指導法研究1	松尾 祐孝	214
合奏指導法研究1	石井 喜久子	217
合奏指導法研究2	渡部 亨	220
合奏指導法研究2	水野 佐知香	223
合奏指導法研究2	神谷 百子	226
合奏指導法研究2	松尾 祐孝	229

合奏指導法研究2	原 善伸		232
合奏指導法研究2	石井 喜久子		235
オルガン研究[火3]	荻野 由美子		238
作品研究法[月4]Aクラス	那須田 務		241
作品研究法[金2]Bクラス	那須田 務		244
楽曲分析法[火1]Aクラス	山田 武彦		247
楽曲分析法[水4]Bクラス	照屋 正樹		250
専門器楽実習 I (PF)	吉武 雅子		253
専門器楽実習 I (OR)	荻野 由美子		256
専門器楽実習 I (WI)	渡部 亨		259
専門器楽実習 I (SI)	水野 佐知香		262
専門器楽実習 I (PI)	神谷 百子		265
専門器楽実習 I (EO)	赤塚 博美		268
専門器楽実習 I (WA)	松尾 祐孝		271
専門器楽実習 II (PF)	吉武 雅子		274
専門器楽実習 II (WI)	渡部 亨		277
専門器楽実習 II (SI)	水野 佐知香		280
専門器楽実習 II (GT)	原 善伸		283
専門器楽実習 II (PI)	神谷 百子		286
専門器楽実習 II (WA)	松尾 祐孝		289
演奏法研究 I (PF)	吉武 雅子		292
演奏法研究 I (OR)	荻野 由美子		295
演奏法研究 I (WI)	渡部 亨		298
演奏法研究 I (SI)	水野 佐知香		301
演奏法研究 I (PI)	神谷 百子		304
演奏法研究 I (EO)	赤塚 博美		307
演奏法研究 I (WA)	松尾 祐孝		310
演奏法研究 II (PF)	吉武 雅子		313
演奏法研究 II (WI)	渡部 亨		316
演奏法研究 II (SI)	水野 佐知香		319
演奏法研究 II (GT)	原 善伸		322
演奏法研究 II (PI)	神谷 百子		325
演奏法研究 II (WA)	松尾 祐孝		328
声楽実習 I (VO)	柳澤 涼子		331
声楽実習 II (VO)	柳澤 涼子		334
演奏法研究 I (VO)	柳澤 涼子		337
演奏法研究 II (VO)	柳澤 涼子		340
創作研究 II (CO)	清水 昭夫		343
作曲理論研究 II (CO)	清水 昭夫		346

創作制作研究Ⅰ(SC)	前田 康德		349
創作制作研究Ⅱ(SC)	前田 康德		352
音楽音響理論研究Ⅰ(SC)	前田 康德		355
音楽音響理論研究Ⅱ(SC)	前田 康德		358
副科学研究1(MP)	佐藤 昌弘		361
副科学研究2(MP)	佐藤 昌弘		364
副科学研究3(CO)	清水 昭夫		367
副科学研究3(MP)	佐藤 昌弘		370
副科学研究4(CO)	清水 昭夫		373
副科学研究4(MP)	佐藤 昌弘		376

科目名	音楽教育学研究						
代表教員	塚原 健太	授業コード	IE140100	科目コード	IE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：音楽教育学の基礎的な研究方法および研究内容

到達目標：

- (1) 研究遂行の基礎となる知識・技能を習得する。
- (2) 音楽教育学の分野と方法を理解し、自らの研究課題を位置づける。
- (3) 日本の音楽科教育の基本構造を理解する。
- (4) 音楽教育学の今日的課題を理解し、自らの研究の意義を明確にする。

2. 授業概要

前期：まず各受講生の研究テーマおよび問題設定を確認する（第1回）。次に文献探索の方法や論文の読み方などの基礎技術を理解した上で、各自の関心に応じた先行研究の講読と批判を行う（第2～6回）。続いて音楽教育学の分野と方法を具体的な研究事例を通して概観する（第7～11回）。前期の最後では、日本の音楽科教育の構造を教育政策・歴史の観点から概観する（第12回～15回）。後期：音楽教育学の基礎的な文献、および今日的な課題を取り上げた文献を講読することで、自らの研究の位置づけを明確にする（第1～11回）。さらに前期・後期を通じて習得した基礎的な知識・技能を踏まえて、各受講生の研究について報告してもらい、修士論文執筆につなげる（第12～15回）。授業はほぼすべての回を文献講読や発表を中心に進め、体系的な知識の整理が必要な場合は講義などを取り入れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修士論文作成の基礎的な知識・技能を習得するためにも、授業で指定した文献を事前によく読み、レジュメにまとめる作業に取り組むこと。さらに事後は授業でのディスカッションなどを踏まえ、再読することを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（35%）
報告の内容（35%）
議論への参加状況（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：加藤富美子編『音楽科教育』一藝社、2013年
参考文献：日本音楽教育学会編『音楽教育学の未来』音楽之友社、2005年
秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー』東京大学出版、2005年
Phelps, Roger P., and et al., A Guide to Research in Music Education, 5th Edition, The Scarecrow Press, 2005.
日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック』教育出版、2017年
リーマー、ベネット／丸山忠璋訳『音楽教育の哲学』音楽之友社、1987年
スワンウィック、キース／野波健彦ほか訳『音楽と心と教育』音楽之友社、1992年
西園芳信『小学校音楽科カリキュラム構成に関する教育実践学的研究』風間書房、2005年
スモール、クリストファー／野澤豊・西島千尋訳『ミュージッキングー音楽は〈行為〉である』水声社、2011年
この他は授業中に随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生の研究テーマや関心に応じて毎回のトピックや重点の置き方、講義順序などを変更することがある。

授業計画	
	[前期]
1	(1) 研究テーマと問題設定
2	(2) 文献探索と収集の方法-1
3	(2) 文献探索と収集の方法-2
4	(3) 論文の構造と読み方
5	(4) 先行研究の講読と批判-1
6	(4) 先行研究の講読と批判-2
7	(5) 音楽教育学の研究分野-1
8	(5) 音楽教育学の研究分野-2
9	(6) 音楽教育学の研究手法-1
10	(6) 音楽教育学の研究手法-2
11	(6) 音楽教育学の研究手法-3
12	(7) 日本の教育課程行政と学習指導要領-1
13	(7) 日本の教育課程行政と学習指導要領-2
14	(8) 日本の音楽科教育の史的展開-1
15	(8) 日本の音楽科教育の史的展開-2

授業計画	
	[後期]
1	(8) 音楽教育学の基礎文献購読—基礎論的分野-1
2	(8) 音楽教育学の基礎文献購読—基礎論的分野-2
3	(8) 音楽教育学の基礎文献購読—基礎論的分野-3
4	(9) 音楽教育学の基礎文献購読—カリキュラム論的分野-1
5	(9) 音楽教育学の基礎文献購読—カリキュラム論的分野-2
6	(9) 音楽教育学の基礎文献購読—カリキュラム論的分野-3
7	(10) 音楽教育学の基礎文献購読—実践論的分野-1
8	(10) 音楽教育学の基礎文献購読—実践論的分野-2
9	(10) 音楽教育学の基礎文献購読—実践論的分野-3
10	(11) 音楽教育学の今日的課題-1
11	(11) 音楽教育学の今日的課題-2
12	(12) 研究の進捗状況の報告と検討-1
13	(12) 研究の進捗状況の報告と検討-2
14	(12) 研究の進捗状況の報告と検討-3
15	(12) 研究の進捗状況の報告と検討-4

科目名	音楽教育学演習Ⅰ						
代表教員	金井 公美子	授業コード	IE141000	科目コード	IE1410	期間	通年
担当教員	佐藤 昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：音楽教育の諸問題の把握と関連資料のレビュー

到達目標：日本と西洋の音楽教育を概観し、中国の音楽教育との違いについて把握する。また、日本の伝統的な楽器を用いた授業実践を体験や、20世紀音楽を教材とした鑑賞や創作の授業のシミュレーションをすることにより、アクティブラーニングを取り入れた指導の内容、方法を研究し理解する力を身に付ける。

2. 授業概要

前期は、音楽教育を西洋と日本の歴史的背景から学び、アジア(中国)の音楽教育と日本の音楽教育の比較について深く学んでいく。後期は、日本の学校教育の鑑賞と創作を中心に、20世紀に書かれた音楽書をテキストとして、音楽創造と教育との関わり合いを学び、その内容や方法の精選について研究を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

関連資料のレビューが中心となるため、授業時間外での資料の探索や読解が必要であるので、自らの研究活動とバランスをとりつつ、計画をたてて準備をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
レポート（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特定のテキストは特になく、配付資料を準備。参考文献は講義中随時示す。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕音楽教育の諸問題とその歴史背景
1	ガイダンス
2	日本の音楽教育の歴史的背景 明治・大正
3	日本の音楽教育の歴史的背景 学習指導要領の変遷
4	学校教育における日本の伝統音楽の実際－伝統音楽の体験を交えて
5	資料講読1：各国の音楽教育
6	資料講読2：中国の音楽教育－表現教育
7	資料講読3：中国の音楽教育－鑑賞教育
8	資料講読4：韓国の音楽教育－伝統音楽を中心に
9	資料講読5：ハンガリーの音楽教育－コダーイ・メソッドを中心に
10	資料講読6：リトミック教育－ジャック＝ダルクローズを中心に
11	プレゼンテーション1：中国の音楽教育－表現教育
12	プレゼンテーション2：中国の音楽教育－鑑賞教育
13	プレゼンテーション3：リトミック教育
14	日本と中国の音楽教育の比較
15	総括

授業計画	
	〔後期〕 今日における音楽教育の諸問題：創作を中心に
1	ガイダンス
2	日本の学校教育における鑑賞
3	日本の学校教育における創作
4	創作と鑑賞との関連について
5	資料講読 1 バーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽の無限の多様性」
6	資料講読 2 バーンスタイン著『音楽を語る』より「シリアスミュージックにおけるジャズ」
7	資料講読 3 バーンスタイン著『音楽を語る』より「リズム」
8	資料講読 4 バーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽におけるロマンチズム」
9	資料講読 5 メシアン著『音楽言語の技法』より第3章～第7章（リズムに関する記述）
10	資料講読 6 メシアン著『音楽言語の技法』より第8章～第11章（旋律に関する記述）
11	資料講読 7 メシアン著『音楽言語の技法』より第13章～第15章（和声に関する記述）
12	資料講読 8 メシアン著『音楽言語の技法』より第16章～第19章（旋法に関する記述）
13	資料講読 9 武満徹著『東の音・西の音—さわりの文化について』
14	資料講読 10 武満徹著『私の受けた音楽教育』
15	総括

科目名	音楽教育学演習Ⅱ						
代表教員	董 芳勝	授業コード	IE141500	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員	佐藤 昌弘						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽教育学演習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づき、1年次からの研究を深め、その成果を取り纏める。
 目標：修士論文を作成する。

2. 授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、院生・教員との討議、および教員による個人指導のもとに進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査、論文執筆等々、学習にかかる時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

4. 成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度（50%）
 論文作成上必要な作業への対応状況（50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて随時紹介。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案
3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定
7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出
11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討
15	前期の総括及び中間発表の準備

授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表
3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成 1 序論
7	論文作成 2 第1章作成
8	論文作成 3 第1章推敲
9	論文作成 4 第2章作成
10	論文作成 5 第2章推敲
11	論文作成 6 第3章作成
12	論文作成 7 第3章推敲
13	論文作成 8 結論
14	論文の仕上げと見直し
15	論文要旨作成

科目名	音楽表現研究Ⅰ						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード*	IE144000	科目コード*	IE1440	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽表現を理解する重要な要素の一つで、かつ教材作成に役立つ「作品分析」という分野の実践では、教育に携わる者として大切な資質となる洞察力と解釈力を必要とする。この授業では、主題となる作品分析という行為を通して、洞察力と解釈力を身につけることが到達目標である。

2. 授業概要

- 【前期】J. S. Bachのクラヴィエラ作品を、おもに対位法的側面、楽式的側面から分析し、かつ教育的見地からその学習意義を検証する。
 【後期】C. Debussyのピアノ作品を、おもに和声的側面、音色的側面、構成的側面から分析し、その革新性、独創性について検証する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲に相当する作品を一通り弾いておく、あるいは音源を聴きながら目を通しておく。
 復習：授業で分析した作品について、その分析内容を再確認し要点をまとめておく。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
 レポート執筆（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- 【前期】矢代秋雄・小林仁 共著 「バッハ平均律の研究I」（音楽之友社）クラウディオ・ソアレズ「バッハ演奏と指導のハンドブック」（ヤマハミュージックメディア）
 【後期】別宮貞雄著「ドビュッシー前奏曲集第1巻全曲研究」（芸術現代社）中井正子「ドビュッシー ピアノ全作品演奏ハンドブック」（アルテスパブリッシング）
 前期、後期とも補足説明の印刷物を随時配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】 J. S. Bachのクラヴィーア作品の分析
1	前期ガイダンス
2	「2声のインヴェンション」より
3	「3声のシンフォニア」より
4	「フランス組曲」「イギリス組曲」より
5	「平均律クラヴィーア曲集第1巻」第1番～第12番より
6	「平均律クラヴィーア曲集第1巻」第13番～第24番より
7	「平均律クラヴィーア曲集第2巻」第1番～第12番より
8	「平均律クラヴィーア曲集第2巻」第13番～第24番より
9	「パルティータ」第1番～第3番より
10	「パルティータ」第4番～第6番より
11	「ゴルトベルク変奏曲」アリア、第1変奏～第15変奏より
12	「ゴルトベルク変奏曲」第16変奏～第30変奏より
13	「フーガの技法」コントラプンクトⅠ～Ⅶより
14	「フーガの技法」よりコントラプンクトⅧ～ⅩⅣより
15	前期総括

授業計画	
	【後期】C. Debussyのピアノ作品の分析
1	後期ガイダンス
2	「ベルガマスク組曲」より
3	「ピアノのために」より
4	「版画」より
5	「映像第1集」より
6	「喜びの島」
7	「映像第2集」より
8	「前奏曲集第1巻」Ⅰ～Ⅵより
9	「前奏曲集第1巻」Ⅶ～ⅩⅡより
10	「子供の領分」より
11	「前奏曲集第2巻」Ⅰ～Ⅵより
12	「前奏曲集第2巻」Ⅶ～ⅩⅡより
13	「12の練習曲集第1巻」より
14	「12の練習曲集第2巻」より
15	後期総括

科目名	音楽表現研究II						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE144500	科目コード	IE1445	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽表現を理解する重要な要素の一つで、かつ教材作成に役立つ「作品分析」という分野の実践では、教育に携わる者として大切な資質となる洞察力と解釈力を必要とする。この授業では、主題となる作品分析という行為を通して、洞察力と解釈力を身につけることが到達目標である。

2. 授業概要

【前期】J. S. Bachのクラヴィエア作品を、おもに対位法的側面、楽式的側面から分析し、かつ教育的見地からその学習意義を検証する。
 【後期】C. Debussyのピアノ作品を、おもに和声的側面、音色的側面、構成的側面から分析し、その革新性、独創性について検証する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲に相当する作品を一通り弾いておく、あるいは音源を聴きながら目を通しておく。
 復習：授業で分析した作品について、その分析内容を再確認し要点をまとめておく。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
 レポート執筆（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】矢代秋雄・小林仁 共著 「バッハ平均律の研究1」（音楽之友社）クラウディオ・ソアレズ「バッハ演奏と指導のハンドブック」（ヤマハミュージックメディア）
 【後期】別宮貞雄著「ドビュッシー前奏曲集第1巻全曲研究」（芸術現代社）中井正子「ドビュッシー ピアノ全作品演奏ハンドブック」（アルテスパブリッシング）
 前期、後期とも補足説明の印刷物を随時配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】 J. S. Bachのクラヴィーア作品の分析
1	前期ガイダンス
2	「2声のインヴェンション」より
3	「3声のシンフォニア」より
4	「フランス組曲」「イギリス組曲」より
5	「平均律クラヴィーア曲集第1巻」第1番～第12番より
6	「平均律クラヴィーア曲集第1巻」第13番～第24番より
7	「平均律クラヴィーア曲集第2巻」第1番～第12番より
8	「平均律クラヴィーア曲集第2巻」第13番～第24番より
9	「パルティータ」第1番～第3番より
10	「パルティータ」第4番～第6番より
11	「ゴルトベルク変奏曲」アリア、第1変奏～第15変奏より
12	「ゴルトベルク変奏曲」第16変奏～第30変奏より
13	「フーガの技法」コントラプンクトⅠ～Ⅶより
14	「フーガの技法」よりコントラプンクトⅧ～ⅩⅣより
15	前期総括

授業計画	
	【後期】C. Debussyのピアノ作品の分析
1	後期ガイダンス
2	「ベルガマスク組曲」より
3	「ピアノのために」より
4	「版画」より
5	「映像第1集」より
6	「喜びの島」
7	「映像第2集」より
8	「前奏曲集第1巻」Ⅰ～Ⅵより
9	「前奏曲集第1巻」Ⅶ～ⅩⅡより
10	「子供の領分」より
11	「前奏曲集第2巻」Ⅰ～Ⅵより
12	「前奏曲集第2巻」Ⅶ～ⅩⅡより
13	「12の練習曲集第1巻」より
14	「12の練習曲集第2巻」より
15	後期総括

科目名	副論文作成研究						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE206000	科目コード	IE2060	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（MP除く）	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づいた研究とその成果を取りまとめる。
 目標：副論文を作成する。

2. 授業概要

各自の演奏や作品の理論的裏付けとなる根拠や考察を、個人指導を通じて、論文の形でまとめる。優れた演奏・作品には理論に裏付けされた優れた洞察がその根底にあることを常に意識して研究を進め、質の高い論文の完成を目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、論文執筆等々、学習にかかる時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

4. 成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度（30%）
 論文（70%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて随時紹介。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

論文はワードプロセッサで作成する。論文としての書式・ルールで作成するため、それらに対応できるよう準備し心がけること。
 なお、一年次に「作品研究法」「楽曲分析法」を履修できなかった人は、今年度併せて履修することが望ましい。

授業計画	
	〔前期〕 ただし、実際の進め方については、それぞれの状況が異なるので、詳細は指導教員と相談すること。
1	オリエンテーション
2	テーマ探求 1
3	テーマ探求 2
4	テーマの決定と研究計画立案
5	研究計画立案
6	資料・文献の探索と収集 1
7	資料・文献の探索と収集 2
8	資料・文献の探索と収集 3
9	資料・文献の探索と収集 4
10	資料・文献からのデータ抽出 1
11	資料・文献からのデータ抽出 2
12	資料・文献からのデータ抽出 3
13	資料・文献からのデータ抽出 4
14	研究テーマと計画の調整
15	中間発表の準備

授業計画	
	[後期]
1	中間発表の要旨作成
2	中間発表の要旨作成
3	中間発表（公開）
4	論文作成（必要な資料・文献の追加） 1
5	論文作成（必要な資料・文献の追加） 2
6	論文作成（必要な資料・文献の追加） 3
7	論文作成（必要な資料・文献の追加） 4
8	論文作成 1
9	論文作成 2
10	論文作成 3
11	論文作成 4
12	論文作成 5
13	論文提出後の見直し 1
14	論文提出後の見直し 2
15	大学保存用論文の仕上げ

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究 1						
代表教員	前田 康德	授業コード*	IE263100	科目コード*	IE2631	期間	通年
担当教員	菅原 サトル、佐藤 ひろのすけ、栗山 和樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を前提とします。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

2. 授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家、作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に、役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。
また、必要に応じてハーモニー特殊研究A、ハーモニー特殊研究B、ソングライティング特殊研究（半期）を受講することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開して行きたいと考えています。ハーモニーの知識不十分な場合は、まず最初にハーモニー特殊研究の履修を推奨します。
さらにハーモニーの理解を深めるため、ソングライティング特殊研究を同時履修することが可能です。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウィリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウィリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	3度和声／2度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表－発表ポイントの確認－
13	作品の研究発表－反省点の確認－
14	作品の研究発表－講評－
15	後期内容のまとめと講評

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究 2						
代表教員	前田 康德	授業コード*	IE263200	科目コード*	IE2632	期間	通年
担当教員	菅原 サトル、佐藤 ひろのすけ、栗山 和樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を前提とします。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

2. 授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家、作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に、役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。
また、必要に応じてハーモニー特殊研究A、ハーモニー特殊研究B、ソングライティング特殊研究（半期）を受講することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開して行きたいと考えています。ハーモニーの知識不十分な場合は、まず最初にハーモニー特殊研究の履修を推奨します。
さらにハーモニーの理解を深めるため、ソングライティング特殊研究を同時履修することが可能です。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウィリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウィリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	3度和声／2度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表－発表ポイントの確認－
13	作品の研究発表－反省点の確認－
14	作品の研究発表－講評－
15	後期内容のまとめと講評

科目名	ライブ・エレクトロニクス研究 1						
代表教員	宮木 朝子	授業コード	IE264100	科目コード	IE2641	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

「音楽・音響空間特殊研究」として、映像に対する音響の可能性や空間性という視点から音楽・音響を考察。映画やアート映像、空間的な表現における、聴覚と視覚のコンテンポラリーな関係を研究する。空間デザインとしてのサウンドインスタレーション、サウンド・アートや舞台作品についても研究する。

2. 授業概要

前期は「メディア芸術としての電子音楽表現」の歴史から現在まで作品鑑賞、分析、研究発表をおこない、具体音（現実音・環境音）を用いた電子音響音楽を制作し、立体音響再生システムについて学ぶ。後期はサウundscape、サウンドアートなど空間的な音楽表現の歴史を学び、音響と映像と空間の融合による表現について考察。映画音楽の分析、インスタレーションの企画発表をおこなう。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での音素材録音と分析・解説を元に各自が小作品を制作する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）制作への取り組み（評価の40%）制作作品評価（評価の20%）
授業の欠席が3分の1を超える者については、単位を認定しない。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『コンピュータ音楽-歴史・テクノロジー・アート』 Curtis Roads著（東京電機大学出版局）
『映画にとって音とはなにか』 ミシェル・シオン著（勁草書房）
『Maxの教科書』 ノイマンピアノ著（リットーミュージック）
『世界の調律』 R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』 井出祐昭（Yamaha）他

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ・ソフト（波形編集できるもの、Logic、Pro-toolsなど）による編集・加工作業について各自日常的に学習・習熟して授業に臨んで欲しい。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス-メディアとしての音
2	音楽とメディア 録音と音楽-アコースマティック・アートとは
3	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析1 フランス音楽の伝統との関連
4	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析2 作品のタイプ別分析
5	作品分析結果発表、考察
6	録音実習-具体音の録音
7	録音素材の分類と作曲技法解説
8	素材の加工方法について解説、実習
9	制作実習1-素材の扱いについて
10	制作実習2-空間の作り方
11	立体音響空間演奏システム=アコースモニウムとは
12	アコースモニウム演奏実習1-演奏技法について
13	アコースモニウム演奏実習2-空間の捉え方と表現法
14	アコースモニウム演奏実習3-曲の解釈と表現について
15	制作発表スタジオコンサートと解説

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス（後期の解説）
2	サウンドスケープ導入ータルコフスキー映画分析
3	サウンドスケープ・コンポジション
4	サウンドスペースコンポーザーについて
5	フィールドレコーディング実習（制作素材録音）
6	制作実習
7	サウンド・アート、サウンドインスタレーション作品分析
8	企画案、制作実習1 テーマの立て方
9	企画案・制作実習2-実現に向けての企画書の書き方
10	映像と音響の表現について
11	映像と光と身体による舞台表現考察
12	ライブエレクトロニクスの歴史と作品
13	ライブエレクトロニクス実習
14	後期のまとめ
15	制作作品発表と解説

科目名	ライブ・エレクトロニクス研究 2						
代表教員	宮木 朝子	授業コード	IE264200	科目コード	IE2642	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

「音楽・音響空間特殊研究」として、映像に対する音響の可能性や空間性という視点から音楽・音響を考察。映画やアート映像、空間的な表現における、聴覚と視覚のコンテンポラリーな関係を研究する。空間デザインとしてのサウンドインсталレーション、サウンド・アートや舞台作品についても研究する。

2. 授業概要

前期は「メディア芸術としての電子音楽表現」の歴史から現在まで作品鑑賞、分析、研究発表をおこない、具体音（現実音・環境音）を用いた電子音響音楽を制作し、立体音響再生システムについて学ぶ。後期はサウンドスケープ、サウンドアートなど空間的な音楽表現の歴史を学び、音響と映像と空間の融合による表現について考察。映画音楽の分析、インсталレーションの企画発表をおこなう。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での音素材録音と分析・解説を元に各自が小作品を制作する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）制作への取り組み（評価の40%）制作作品評価（評価の20%）
授業の欠席が3分の1を超える者については、単位を認定しない。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『コンピュータ音楽-歴史・テクノロジー・アート』 Curtis Roads著（東京電機大学出版局）
『映画にとって音とはなにか』 ミシェル・シオン著（勁草書房）
『Maxの教科書』 ノイマンピアノ著（リットーミュージック）
『世界の調律』 R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』 井出祐昭（Yamaha）他

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ・ソフト（波形編集できるもの、Logic、Pro-toolsなど）による編集・加工作業について各自日常的に学習・習熟して授業に臨んで欲しい。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス-メディアとしての音
2	音楽とメディア 録音と音楽-アコースマティック・アートとは
3	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析1 -フランス音楽の伝統との関係
4	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析2 -タイプ別分析方法
5	作品分析結果発表、考察
6	録音実習-具体音の録音
7	録音素材の分類と作曲技法解説
8	素材の加工方法について解説、実習
9	制作実習1-素材の扱いについて
10	制作実習2-空間の作り方について
11	立体音響空間演奏システム=アコースモニウムとは
12	アコースモニウム演奏実習1-解釈について
13	アコースモニウム演奏実習2-表現方法について
14	前期のまとめ
15	制作発表スタジオコンサートと解説

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス（後期の解説）
2	サウンドスケープ導入ータルコフスキー映画分析
3	サウンドスケープ・コンポジション
4	サウンドスペースコンポーザーについて
5	フィールドレコーディング実習（制作素材録音）
6	制作実習
7	サウンド・アート、サウンドインスタレーション作品分析
8	企画案、制作実習1ー企画の立て方
9	企画案・制作実習2ー企画案のまとめ方
10	映像と音響の表現について
11	映像と光と身体による舞台表現考察
12	ライブエレクトロニクスの歴史と作品
13	ライブエレクトロニクス実習
14	後期のまとめ
15	制作作品発表と解説

科目名	デジタル・オーケストレーション研究 1						
代表教員	前田 康德	授業コード	IE265100	科目コード	IE2651	期間	通年
担当教員	渡辺 俊幸、山下 康介、上倉 紀行						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりも簡素であるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。
この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

2. 授業概要

デジタルオーケストレーション研究は、デジタルオーケストレーションとミュージックプロダクションの2つの分野を実施する。
デジタルオーケストレーションは、音楽音響空間特殊研究と連携した授業を実施する。
ミュージックプロダクションは複数の教員による講義・実習が含まれるためスケジュールが流動的となることがある。また、自作品を演奏家に演奏して頂き、作品を録音するという内容が含まれる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
授業内に終了しなかった課題は翌週の授業時まで済ませておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
(指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

- 1、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
- 2、演奏家に演奏して頂くための楽譜が作成できること。

授業計画	
	〔前期〕 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	まとめと総評

授業計画	
	〔後期〕 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	作品のスケッチ確認作業
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング（後半）
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会（マルチチャンネル含む）
15	まとめと総評

科目名	デジタル・オーケストレーション研究 2						
代表教員	前田 康德	授業コード*	IE265200	科目コード*	IE2652	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりも簡素であるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

2. 授業概要

デジタルオーケストレーション研究は、デジタルオーケストレーションとミュージックプロダクションの2つの分野を実施する。デジタルオーケストレーションは、音楽音響空間特殊研究と連携した授業を実施する。ミュージックプロダクションは複数の教員による講義・実習が含まれるためスケジュールが流動的となることがある。また、自作品を演奏家に演奏して頂き、作品を録音するという内容が含まれる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
授業内に終了しなかった課題は翌週の授業時まで済ませておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
(指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

- 1、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
- 2、演奏家に演奏して頂くための楽譜が作成できること。

授業計画	
	〔前期〕 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	まとめと総評

授業計画	
	〔後期〕 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	作品のスケッチ確認作業
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング（後半）
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会（マルチチャンネル含む）
15	まとめと総評

科目名	録音・音響特殊研究 1						
代表教員	前田 康德	授業コード*	IE266100	科目コード*	IE2661	期間	通年
担当教員	森 威功、永岡 宏昭、徳永 宏、北村 一樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

2. 授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。
後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60％） 平常点（評価の40％）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	アナログ減算合成 1
2	アナログ減算合成 2
3	作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析 1
12	音声入力分析 2
13	プログラミング実習 1
14	プログラミング実習 2
15	作品発表

授業計画	
	[後期]
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用 1
4	FFT応用 2
5	Jitter objectを用いた映像処理 1
6	Jitter objectを用いた映像処理 2
7	Jitter objectを用いた映像処理3
8	Jitter objectを用いた映像処理4
9	Jitter objectを用いた映像処理5
10	企画発表
11	制作実習 1
12	制作実習 2
13	制作実習 3
14	制作実習 4
15	作品発表と総括

科目名	録音・音響特殊研究 2						
代表教員	前田 康德	授業コード*	IE266200	科目コード*	IE2662	期間	通年
担当教員	森 威功、永岡 宏昭、徳永 宏、北村 一樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

2. 授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。
後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60％） 平常点（評価の40％）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	アナログ減算合成 1
2	アナログ減算合成 2
3	作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析 1
12	音声入力分析 2
13	プログラミング実習 1
14	プログラミング実習 2
15	作品発表

授業計画	
	[後期]
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用 1
4	FFT応用 2
5	Jitter objectを用いた映像処理 1
6	Jitter objectを用いた映像処理 2
7	Jitter objectを用いた映像処理3
8	Jitter objectを用いた映像処理4
9	Jitter objectを用いた映像処理5
10	企画発表
11	制作実習 1
12	制作実習 2
13	制作実習 3
14	制作実習 4
15	作品発表と総括

科目名	映像特殊研究 1						
代表教員	富永 憲治	授業コード	IE267100	科目コード	IE2671	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、音楽と視覚の関係について研究することが目的である。つまり、映像と音楽の相互作用についての研究を行う。

2. 授業概要

前期は、一般的な動画、静止画の画像処理の方法を概観し、視覚的な効果と音との関連性について学習する。後期においては、時間感覚の制御を中心に据え、素材の加工、動画編集について学習する。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

作品への取り組み50%、授業への取り組み50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員の指示に従い準備すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	動画の編集等は、非常に時間がかかるので、右記の計画を遂行するには、事前にフォーマットの変換等を終わておく必要がある。
1	ガイダンス
2	映像の歴史・1（映画の発明）
3	映像の歴史・2（映画の発展）
4	映像の歴史・3（映画の熟成）
5	映像技法・1（カットとシーン）
6	映像技法・2（レンズと画角）
7	映像技法・3（アングル）
8	映像技法・4（UPとLong Shot）
9	映像技法・5（Panning）
10	映像技法・6（移動撮影）
11	映像技法・7（特機撮影）
12	映像技法・8（照明の基本）
13	映像技法・9（特殊効果）
14	映像技法・10（編集）
15	映像技法・11（音響設計）

授業計画	
	自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考えること
1	ケーススタディ・1（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・2（映像と音楽の組み合わせ）
3	ケーススタディ・3（映像と音楽の組み合わせ）
4	企画立案
5	構成・脚本作成
6	撮影準備（コンテ作成・美術小道具など）
7	創作コンテに従い撮影
8	創作コンテに従い撮影
9	編集作業（PCに取り込み）
10	編集作業
11	音楽・サウンド準備
12	ダビング作業
13	ダビング 作業
14	作品提出・レポート提出
15	作品上映・講評

科目名	映像特殊研究 2						
代表教員	富永 憲治	授業コード	IE267200	科目コード	IE2672	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	映像特殊研究 1						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、音楽と視覚の関係について研究することが目的である。つまり、映像と音楽の相互作用についての研究を行う。

2. 授業概要

前期は、映像特殊研究 1 で習得した映像の基礎知識に基づいて、歴史的な映像技術を体現する。後期においては、映像によって自己表現することに挑戦する。自己満足での編集テクニックやエフェクトを駆使するのではなく、見ている人にテーマが有効に伝わる事を意識した映像表現にトライする。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

作品への取り組み 50%、授業への取り組み 50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員の指示に従い準備すること。カメラに使用するSDカードは、個人で用意して下さい。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	「前期」動画の編集等は、非常に時間がかかるので、右記の計画を遂行するには、事前にフォーマットの変換等を終えておくことが必要である。
1	ガイダンス
2	画像の連続
3	画像が動く・人間の目の錯覚
4	錯覚・錯視の実験
5	初歩的なアニメーションの作成
6	初歩的なアニメーションの作成
7	初歩的なアニメーションの作成
8	回転板のアニメーション作成
9	回転板のアニメーション作成
10	回転板のアニメーション作成
11	立体アニメ作成
12	立体アニメ作成
13	立体アニメ作成
14	前期作品の音響設計を考える
15	前期作品のダビング作業

授業計画	
	〔後期〕 自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考えること
1	ケーススタディ・1（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・2（映像と音楽の組み合わせ）
3	ケーススタディ・3（映像と音楽の組み合わせ）
4	企画立案
5	構成・脚本作成
6	撮影準備（コンテ作成・美術小道具など）
7	創作コンテに従いカメラで撮影
8	創作コンテに従い撮影
9	編集作業（PCに取り込み）
10	編集 作業
11	音楽・サウンド準備
12	ダビング作業
13	ダビング作業
14	作品提出・レポート提出
15	作品講評

科目名	作曲法特殊研究 2						
代表教員	清水 昭夫	授業コード*	IE2702A0	科目コード*	IE2702	期間	
担当教員	久行 敏彦						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	C0	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲法という言葉はさまざまなテクニックを指すが、本授業においては特に和声法について、これまでに修得してきたテクニックをさらに向上させることを主題とする。

和声法は20世紀にH. シャランをはじめとする理論家によって大きな発展を遂げた。日本においても島岡譲氏らによる『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅲ』（音楽之友社）により例えば模倣反復進行、偶成和音、保続音、2個の主題の同時的提示をもつバス課題、階梯導入をもつバス課題など、さまざまな概念や課題様式が考案された。さらに、特にフランスにおいて特定の作曲家の和声様式に基づく課題などへと発展し今日に至る。

本授業では、それらの課題様式における難度の高い課題を中心に修得するとともに、それらの課題を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス 目標の設定 課題の研究 階梯導入をもつバス課題
2	課題の創作 階梯導入をもつバス課題
3	模範例作成 階梯導入をもつバス課題
4	課題の研究 H. シャラン 380 の和声課題集第 9 巻
5	課題の創作 H. シャランの様式による課題（第 9 巻）
6	模範例作成 H. シャランの様式による課題（第 9 巻）
7	課題の研究 H. シャラン 380 の和声課題集第 10 巻
8	課題の創作 H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
9	模範例作成 H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
10	課題の研究 音楽大学入試におけるバス課題
11	課題の創作 音楽大学入試におけるバス課題
12	課題の研究 音楽大学入試におけるソプラノ課題
13	課題の創作 音楽大学入試におけるソプラノ課題
14	模範例作成 音楽大学入試における課題
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	[後期]
1	課題の研究 J.P. ラモー様式
2	課題の創作 J.P. ラモー様式
3	模範例作成 J.P. ラモー様式
4	課題の研究 C. フランク様式
5	課題の創作 C. フランク様式
6	模範例作成 C. フランク様式
7	課題の研究 G. フォーレ様式
8	課題の創作 G. フォーレ様式
9	模範例作成 G. フォーレ様式
10	課題の研究 C. ドビュッシー様式
11	課題の創作 C. ドビュッシー様式
12	模範例作成 C. ドビュッシー様式
13	課題の研究 M. ラヴェル様式
14	課題の創作 M. ラヴェル様式
15	模範例作成 M. ラヴェル様式 1年間の総括

科目名	作曲法特殊研究 2						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	IE2702B0	科目コード	IE2702	期間	通年
担当教員	大江 千佳子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

西洋音楽における五線を用いる記譜法は、今日では世界に広く浸透し、あらゆる音楽の記譜に用いられるようになってきた。しかし、五線記譜法は全ての音楽を書き表すのに適しているというわけではなく、今日でも各地域の文化、伝統によって独自の記譜法が定着している楽器や、口伝によって受け継がれている音楽も存在する。

本授業では、①五線記譜法とそれ以外の記譜法の違いを研究し、相互に書き表す方法を修得すること ②様々な楽器の奏法や音楽語法を考察し、各自の専攻へ応用できるようになることを主題及び目標とする。

作曲法特殊研究2では、さらに様々な楽器を用いての作曲、編曲の力を身につけることを目標とする。

2. 授業概要

例えば日本における箏や三味線、中国における二胡など、さまざまな楽器や文化における独自の記譜法について、五線記譜法との違いを研究する。五線記譜法の音楽を独自の記譜法に翻訳すること、または独自の記譜法から五線記譜法に翻訳することを通じて、各楽器の専門家のアドバイスを受けながら、記譜と読譜を総合的に学ぶ。また、様々な地域の音楽のリズムや旋法について考察し、理解を深めていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス 目標の設定
2	楽器の研究（二胡）
3	合奏の研究（複数の二胡による）
4	合奏の実践（複数の二胡による）
5	合奏の編曲演習（複数の二胡による）
6	楽器の研究（ヴァイオリン）
7	作品の研究（ヴァイオリンとピアノの二重奏）
8	合奏の研究（二胡、ピアノ）
9	合奏の実践（二胡、ピアノ）
10	合奏の編曲演習（二胡、ピアノ）
11	編曲の研究（ピアノ曲の二胡、ピアノ二重奏への編曲）
12	ピアノ曲の編曲演習 1（選曲、編曲）
13	ピアノ曲の編曲演習 2（編曲、浄書）
14	ピアノ曲の編曲演習 3（演奏）
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	[後期]
1	楽器の研究（リュート）
2	記譜の研究（リュートのタブラチュア）
3	記譜の実践（リュートのタブラチュア）
4	編曲演習（リュート）
5	楽器の研究（箏、尺八）
6	記譜の研究（箏、尺八）
7	記譜の実践（箏、尺八）
8	インド音楽の研究
9	南米音楽の研究
10	フラメンコの研究
11	作曲演習1（テーマの作成、楽曲の構成）
12	作曲演習2（作曲）
13	作曲演習3（作曲、浄書）
14	作曲演習4（演奏）
15	1年間の総括

科目名	楽曲分析法特殊研究 2						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE271200	科目コード	IE2712	期間	通年
担当教員	清水 昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

どのようなジャンルの音楽家にとっても、西洋クラシックの歴史や美学史の知識は、自らの創作や演奏活動の発展の礎となる。そこで、前期は主に各時代の音楽について、社会的文化的背景、楽譜、音楽様式、楽器、演奏習慣など様々な観点から学ぶ。後期は音楽美学の歴史を概観しつつ、ディスカッションを交えて音楽とは何かについて考える。

2. 授業概要

授業は主に講義形式で進められるが、ときには文献や楽譜をもとに自ら研究・発表・ディスカッションを行う。それを通して具体的な研究方法を身に着けると同時に、論理的な思考力、文章力、話をする力を養う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習は当然ながら、あらゆる時代の音楽への関心を持ち、自発的に研究する態度を求めたい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽史と音楽美学ではあるが、履修者の専門分野や関心ごとにも考慮した内容を心掛ける。また、授業計画で挙げられた授業回数とともに、授業時間外の学習時間が必要となるので留意されたい。

授業計画	
1	導入
2	古代ギリシャ・中世の音楽
3	中世の音楽 2
4	中世の音楽 3
5	ルネサンス期の音楽 1
6	ルネサンス期の音楽 2
7	ルネサンス期の音楽 3
8	バロック期の音楽 1
9	バロック期の音楽 2
10	前古典派の音楽
11	古典派の音楽 1
12	古典派の音楽 2
13	19世紀前半の音楽
14	19世紀後半の音楽
15	20世紀の音楽 1

授業計画	
1	20世紀の音楽 2
2	音楽美学～古代ギリシャ・ローマ
3	音楽美学 - 中世
4	音楽美学－近世（15・16世紀）
5	音楽美学－近世（17世紀・18世紀）
6	音楽美学－音楽の修辞学
7	音楽美学－近代（音楽の自律化）
8	音楽美学－ロマン派の感情美学
9	音楽美学－ハンスリック
10	音楽美学－分析の重視（エネルギー説）
11	音楽美学－解釈学
12	音楽美学－音楽の現象学
13	音楽美学－作曲・楽譜・演奏
14	音楽美学－古楽とクラシック
15	音楽美学－まとめ

科目名	アンサンブル特殊研究 2						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	IE272200	科目コード	IE2722	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

民族楽器などを含むさまざまな楽器における旋律線を深く研究し、新たな可能性を模索するとともに、その旋律線に対しての和声法を研究する。西洋音楽における和声法にとどまらず、旋法や五音音階など幅広い音階に目を向けて研究する。
また完成した旋律、ハーモニーをもとにどのようなアンサンブルが可能かを研究し、作曲と演奏の両面に実践につなげていく。
アンサンブル特殊研究 2 では、東洋の伝統的な旋法に加え、20世紀に考案された旋法を中心に研究する。

2. 授業概要

授業ではさまざまな旋律線を研究するが、西洋音楽の記譜法によって表現できないなど、場合によっては記譜法も研究する。最終的には楽譜を制作し、アンサンブル可能な形へとスコア、パート譜等を完成させる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）
平常点には授業への参加姿勢や毎回の課題の達成度、そして授業内でのアンサンブルの完成度が含まれる。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス 目標の設定
2	日本と中国の音階について
3	旋律と和声の研究（日本の音階と和声）
4	合奏譜のスケッチ作成（日本の音階と和声）
5	合奏譜の制作（日本の音階と和声）
6	アンサンブル演習（日本の音階と和声）
7	旋律と和声の研究（中国の音階と和声）
8	合奏譜のスケッチ作成（中国の音階と和声）
9	合奏譜の制作（中国の音階と和声）
10	アンサンブル演習（中国の音階と和声）
11	全音音階と和音の可能性について
12	旋律と和声の研究（全音音階）
13	合奏譜のスケッチ作成（全音音階）
14	合奏譜の制作（全音音階）
15	アンサンブル演習（全音音階）

授業計画	
	[後期]
1	移調の限られた旋法（MTL）について
2	旋律と和声の研究（MTL 2～4 番と和声）
3	合奏譜のスケッチ作成（MTL 2～4 番と和声）
4	合奏譜の制作（MTL 2～4 番と和声）
5	アンサンブル演習（MTL 2～4 番と和声）
6	旋律と和声の研究（MTL 5～7 番と和声）
7	合奏譜のスケッチ作成（MTL 5～7 番と和声）
8	合奏譜の制作（MTL 5～7 番と和声）
9	アンサンブル演習（MTL 5～7 番と和声）
10	MTLを用いた作曲演習
11	合奏譜の制作（西洋の楽器を中心に）
12	アンサンブル演習（西洋の楽器を中心に）
13	合奏譜の制作（東洋の楽器を中心に）
14	アンサンブル演習（東洋の楽器を中心に）
15	1 年間の総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究I						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275100	科目コード	IE2751	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による専門的な指導により、音楽家として、専門家としてのスキル向上を目指す。

2. 授業概要

コレペティートルによる、演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	〔前期〕 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習
9	課題における表現法の演習
10	演習とまとめ
11	音楽家のための体幹トレーニング
12	音楽家のための英会話
13	音楽家のための体幹トレーニング
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	〔後期〕 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	音楽家のための英会話
12	音楽家のための体幹トレーニング
13	音楽家のための英会話
14	音楽家のための体幹トレーニング
15	音楽家のための英会話

科目名	プロフェッショナル特殊研究II						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	IE275200	科目コード*	IE2752	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による専門的な指導により、音楽家として、専門家としてのスキル向上を目指す。

2. 授業概要

コレペティートルによる、演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	〔前期〕 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習
9	課題における表現法の演習
10	演習とまとめ
11	音楽家のための体幹トレーニング
12	音楽家のための英会話
13	音楽家のための体幹トレーニング
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	〔後期〕 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	音楽家のための英会話
12	音楽家のための体幹トレーニング
13	音楽家のための英会話
14	音楽家のための体幹トレーニング
15	音楽家のための英会話

科目名	オペラ研究 1・2						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275300	科目コード	IE2753d	期間	通年
担当教員	塩田 美奈子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オペラ歌手として舞台に立つための様々な基礎的内容の習得、各々の声に応じた作品による音楽表現・舞台身体表現の研究を踏まえ、オペラ・ガラコンサートにおいて課題の作品を完成させる。

2. 授業概要

前期、1年生はモーツァルト「フィガロの結婚」を題材とし、院2年はモーツァルト「魔笛」を題材とする。
前期は主にディクシオン、音楽稽古を中心に行い、後期は一部演目を変えて、「オペラガラコンサート」に向けて稽古を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回与えられた課題、問題点を解決できるよう自主練習をすること

4. 成績評価の方法及び基準

授業の参加姿勢、習熟度を評価するが、欠席回数、遅刻早退も加味する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

自分の演奏する楽譜に関しては各自で用意する。版について指定のある場合は事前に告知する。その他、必要なものは授業内で配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学生各々が取り上げるオペラ作品のヴォーカル・スコア。（各自準備する）
その他、必要な場合はその都度指示する。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンスと授業概要説明
2	コレペティートルによる音楽研究 「フィガロの結婚」から、イタリア語における発語の基礎
3	コレペティートルによる音楽研究 「フィガロの結婚」からモーツァルトにおける楽譜の解析
4	コレペティートルによる音楽研究 「魔笛」から、ドイツ語の発語の基礎
5	コレペティートルによる音楽研究 「魔笛」から、楽譜の解析と読解
6	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、言葉と音のつながりについて
7	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、各キャラクターの音楽表現について
8	指揮者による音楽研究 「魔笛」による役作りと音の表現について
9	演出家による音楽研究 「フィガロの結婚」作品の背景について
10	演出家による音楽研究 「魔笛」作品の背景について
11	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」「椿姫」より
12	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」声の表現と身体表現について
13	声楽講師による音楽研究 「魔笛」における発声を基本とする台詞表現について
14	指揮者と演出家による音楽チェック
15	前期まとめとして、授業内発表

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス・後期オペラガラコンサートに向けて、演目の決定
2	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察
3	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察
4	演出家による作品への考察
5	演出家による各場面への考察
6	立ち稽古「フィガロの結婚」「ランメルモアのルチア」
7	立ち稽古「フィガロの結婚」「リゴレット」
8	立ち稽古「フィガロの結婚」／基本動作
9	立ち稽古「フィガロの結婚」／舞台上の道具の扱い等
10	立ち稽古「魔笛」／ジングシュピールによる演技の基本
11	立ち稽古「魔笛」
12	各演目荒通し
13	各演目荒通し
14	G. P.
15	「オペラ・ガラコンサート」本番

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	櫻田 亮	授業コード	IE275500	科目コード	IE2755	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

2. 授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドバイスの従い、必要な予備研究等を行う。

4. 成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、出席状況、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。

授業計画	
	〔前期〕 授業の進度により変更有
1	ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクショと解釈
5	研究課題曲のディクショと解釈
6	研究課題曲のディクショと解釈
7	歌唱演習及び表現法の研究
8	歌唱演習及び表現法の研究
9	歌唱演習及び表現法の研究
10	歌唱演習及び合唱合わせ
11	歌唱演習及び合唱合わせ
12	歌唱演習及び合唱合わせ
13	おさらい会
14	反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	〔後期〕 授業の進度により変更有
1	ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けての曲目選定
3	研究発表演奏会に向けての曲目決定
4	ソリストをオーディション
5	ソリストを決定
6	研究課題曲のディクショと解釈
7	研究課題曲のディクショと解釈
8	研究課題曲のディクショと解釈
9	歌唱演習及び表現の研究
10	歌唱演習及び表現の研究
11	歌唱演習及び表現の研究
12	歌唱演習及び合唱合わせ
13	歌唱演習及び合唱合わせ
14	歌唱演習及び合唱合わせ
15	研究発表演奏会のG.P

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	櫻田 亮	授業コード	IE275600	科目コード	IE2756	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

2. 授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドバイスの従い、必要な予備研究等を行う。

4. 成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、出席状況、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。

授業計画	
	〔前期〕 授業の進度により変更有
1	ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクショと解釈
5	研究課題曲のディクショと解釈
6	研究課題曲のディクショと解釈
7	歌唱演習及び表現法の研究
8	歌唱演習及び表現法の研究
9	歌唱演習及び表現法の研究
10	歌唱演習及び合唱合わせ
11	歌唱演習及び合唱合わせ
12	歌唱演習及び合唱合わせ
13	おさらい会
14	反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	〔後期〕 授業の進度により変更有
1	ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けての曲目選定
3	研究発表演奏会に向けての曲目決定
4	ソリストをオーディション
5	ソリストを決定
6	研究課題曲のディクショント解釈
7	研究課題曲のディクショント解釈
8	研究課題曲のディクショント解釈
9	歌唱演習及び表現の研究
10	歌唱演習及び表現の研究
11	歌唱演習及び表現の研究
12	歌唱演習及び合唱合わせ
13	歌唱演習及び合唱合わせ
14	歌唱演習及び合唱合わせ
15	研究発表演奏会のG.P

科目名	歌曲研究 1						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	IE275700	科目コード*	IE2757	期間	通年
担当教員	土屋 雅子、悦田 比呂子、牧野 正人、永田 峰雄、服部 真由子、上蘭 未佳、塩田 美奈子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

の解釈をし、正しい発音で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

2. 授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンスの時に各指導教員より指示がある。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、それぞれの歌曲を選択する。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツ語の発語と発音(シューベルト 野ばら)
2	・バロック音楽史 「音楽技術の進化」 ・古典派 ハイドンとモーツアルトの歌曲作品
3	・初期バロック概要 ・モーツアルトとベートーベンの歌曲作品
4	・Caccini, G. "Le Nuove Musiche" ・前期ロマン派 シューベルトの歌曲作品
5	・実習 Amarilli, mia bella ・連作歌曲作品の詩と音楽(ベートーベン、シューベルト、シューマン)
6	・装飾音について ・シューマンの歌曲作品
7	・実習 Dolcissimo sospiro ・前半のまとめ
8	・ヴィヴァートコントロール ・メンデルスゾーン、リスト、ワーグナーの歌曲作品
9	・Monteverdi, C. の音楽作品 ・後期ロマン派 ブラームスの歌曲作品 1
10	・中、後期バロック概要 ・ブラームスの歌曲作品 2
11	・ダ・カーポ形式について ・ヴォルフの歌曲作品 1
12	・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・詩人ゲーテ、メーリケ、アイヒェンドルフとヴォルフの歌曲作品 2
13	・Handel, G. F. の音楽作品 ・シュトラウスの歌曲作品 1
14	・通奏低音実習 ・シュトラウスの歌曲作品 2
15	・まとめ 「バロック音楽作品の楽しみ」 ・後半のまとめ

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲歌唱のためのフランス語発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・G. フォーレの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 En prière, Les presents, Chanson d'amour 等 ・山田耕柝の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・G. フォーレの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
4	・H. デュパルクの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Chanson triste, Lamento 等 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
5	・H. デュパルクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・E. ショーソンの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Sérénade italienne, Le temps des lilas 等 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・E. ショーソンの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・E. シャブリエの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 L'île heureuse, Villanelle des petits canaux 等 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・E. シャブリエの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・F. プーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・F. プーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・M. ローゼンタル歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 La souris d'Angleterre, Le vieux chameau du zoo 等 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・M. ローゼンタル歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・フォーレ、デュパルク、ショーソン作品の総括及び歌唱チェック ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・シャブリエ、プーランク、ローゼンタル作品の総括及び歌唱チェック ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究 2						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	IE275800	科目コード*	IE2758	期間	通年
担当教員	土屋 雅子、悦田 比呂子、牧野 正人、永田 峰雄、服部 真由子、上蘭 未佳、塩田 美奈子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

の解釈をし、正しい発音で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

2. 授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンスの時に各指導教員より指示がある。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、それぞれの歌曲を選択する。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツ語の発語と発音(シューベルト 野ばら)
2	・バロック音楽史 「音楽技術の進化」 ・古典派 ハイドンとモーツアルトの歌曲作品
3	・初期バロック概要 ・モーツアルトとベートーベンの歌曲作品
4	・Caccini, G. "Le Nuove Musiche" ・前期ロマン派 シューベルトの歌曲作品
5	・実習 Amarilli, mia bella ・連作歌曲作品の詩と音楽(ベートーベン、シューベルト、シューマン)
6	・装飾音について ・シューマンの歌曲作品
7	・実習 Dolcissimo sospiro ・前半のまとめ
8	・ヴィヴァートコントロール ・メンデルスゾーン、リスト、ワーグナーの歌曲作品
9	・Monteverdi, C. の音楽作品 ・後期ロマン派 ブラームスの歌曲作品 1
10	・中、後期バロック概要 ・ブラームスの歌曲作品 2
11	・ダ・カーポ形式について ・ヴォルフの歌曲作品 1
12	・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・詩人ゲーテ、メーリケ、アイヒェンドルフとヴォルフの歌曲作品 2
13	・Handel, G. F. の音楽作品 ・シュトラウスの歌曲作品 1
14	・通奏低音実習 ・シュトラウスの歌曲作品 2
15	・まとめ 「バロック音楽作品の楽しみ」 ・後半のまとめ

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲歌唱のためのフランス語発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・G. フォーレの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 En prière, Les presents, Chanson d'amour 等 ・山田耕柝の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・G. フォーレの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
4	・H. デュパルクの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Chanson triste, Lamento 等 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
5	・H. デュパルクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・E. ショーソンの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Sérénade italienne, Le temps des lilas 等 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・E. ショーソンの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・E. シャブリエの歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 L'île heureuse, Villanelle des petits canaux 等 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・E. シャブリエの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・F. ブーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・F. ブーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・M. ローゼンタル歌曲1. ディクショ、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 La souris d'Angleterre, Le vieux chameau du zoo 等 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・M. ローゼンタル歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・フォーレ、デュパルク、ショーソン作品の総括及び歌唱チェック ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・シャブリエ、ブーランク、ローゼンタル作品の総括及び歌唱チェック ・まとめと授業内発表会

科目名	合唱指導法研究 [木3-4]						
代表教員	相澤 直人	授業コード	IE277000	科目コード	IE2770	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱独自の要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場に必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

前期は現在、日本の合唱界で最も注目されている作曲家の一人、信長貴富氏の組曲「新しい歌」を取り上げ、演奏する。POPSや、ブルース、クラシカルなスタイル、と様々な書法で書かれた5曲を、それぞれ「良い声で歌う」だけでなく、「曲が喜ぶ演奏」を目指したい。また恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲を、今年度も前期講義期間中に取り上げる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の小中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。

2. 授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様子を最終の目標とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。また、声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（80%）、発表会参加（20%）を総合して評価をする。
※但し、上述した前期、後期の「合唱の祭典」に欠席した者の単位は認められない。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

学内カワイの売店「ドミナント」に於いて、以下の楽譜を事前に購入し、備えること。

- ・混声合唱とピアノのための「新しい歌」[改訂版]
- ・NHK全国学校音楽コンクール 小学校の部課題曲（女声のみ購入のこと）
- ・NHK全国学校音楽コンクール 中学校の部課題曲 混声
- ・NHK全国学校音楽コンクール 高等学校の部課題曲 混声

注意

・「新しい歌」は初版から10年、第23刷刊行の際に、テンポや強弱が全曲に渡って見直された。[改訂版]であることを確認の上、購入すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繰り返しになるが、上述した前期、後期の「合唱の祭典」に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。

また、前期及び後期の講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。

授業計画	
	「新しい歌」の各曲のスタイルは様々だが、どの曲も旋律主体で比較的シンプルに作曲されている。どこまでも「うた」を求め、表現したい。 また、NHK全国学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する。
1	ガイダンス。また、「新しい歌」及び、NHK全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、全曲練習予定。
2	「新しい歌」全曲通し及び音楽稽古
3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認・作品の流れの展開を把握する（１）
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認・作品の流れの展開を把握する（２）
5	新しい歌 音楽稽古（１）
6	新しい歌 音楽稽古（２）
7	新しい歌 音楽稽古（３）
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の完成と、女声（女子学生）は小学校の部の課題曲の音楽稽古も行う。
9	新しい歌 音楽稽古（４）
10	演奏会に向けての総合練習（１）
11	演奏会に向けての総合練習（２）
12	演奏会に向けての総合練習（３） G.P.
13	演奏会当日リハーサル
14	演奏会本番（於：シルバーマウンテン）
15	後期に扱う楽曲の事前練習

授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（1）
2	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（2）
3	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（3）
4	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（4）
5	12月4日の演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	12月4日の演奏会に向けての練習（1）
7	12月4日の演奏会に向けての練習（2）
8	12月4日の演奏会に向けての練習（3）
9	12月4日の演奏会に向けての練習（4）
10	12月4日の演奏会に向けての練習（5）
11	12月4日の演奏会に向けての総合練習（1）
12	12月4日の演奏会に向けての総合練習（2）
13	12月4日の演奏会に向けての総合練習（3）
14	演奏会前リハーサル
15	演奏会本番（於：前田ホール）

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2801A0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。

【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 (1) 鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 (2) 音階と調
13	ピアニストのための即興講座 (3) 調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 (4) カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 (5) バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 (6) 伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 (7) 非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 (8) より自由な発想による即興と創作プラン (カデンツァ)
4	ピアニストのための即興講座 (9) 調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 (10) 統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラーマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2801C0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1 年次はプロの演奏家から指導、練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

2. 授業概要

年度初めに以下の2項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。

A＝特別アンサンブル研究1. 2（小編成）

ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

B＝室内オーケストラ研究1. 2

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。

室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

4. 成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

A＝3～8重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	〔前期〕 A＝特別アンサンブル研究 1. 2（小編成） 前期 研究発表会（7月・講堂） B＝室内オーケストラ研究 1. 2 定期演奏会（7月・前田ホール）
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究 三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究 四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究 四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究 五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究 五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究 六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲 研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲 研究演奏練習）
11	特別アンサンブル研究（五重奏曲 研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏（序曲 研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習）
15	特別アンサンブル研究（研究演奏会演奏会）

授業計画	
	〔後期〕 A＝特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成) 後期 アンサンブル研究コンサート (12月・SM) B＝室内オーケストラ研究 1. 2 大学院コンチェルトのタベ (10月・前田ホール)
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (フルート)
3	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析 (オーボエ)
4	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (クラリネット)
5	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (サクソフォン)
6	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (フルート)
7	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (オーボエ)
8	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (クラリネット)
9	特別アンサンブル研究 金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) 弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究 (オラトリオアンサンブル研究コンサート練習)
13	特別アンサンブル研究 (オラトリオアンサンブル研究コンサート演奏会)
14	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート練習)
15	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート演奏会)

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2801D0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

著名なアーティスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

2. 授業概要

世界的に活躍する著名なアーティスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	〔前期〕
1	オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン（1）
3	山本裕康講師によるレッスン（1）
4	大野かおる講師によるレッスン（1）
5	須田祥子講師によるレッスン（1）
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン（1）
7	室内管弦楽団
8	音楽家のための体幹トレーニング。
9	音楽家のための英語。
10	沼田園子講師によるレッスン（1）
11	井野辺大輔講師によるレッスン（1）
12	井野辺大輔講師によるレッスン（2）
13	音楽家のための体幹トレーニング。
14	音楽家のための英語
15	安藤裕子講師他によるレッスン（1）

授業計画	
	[後期]
1	オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン（1）
3	山本裕康講師によるレッスン（1）
4	大野かおる講師によるレッスン（1）
5	須田祥子講師によるレッスン（1）
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン（1）
7	室内管弦楽団
8	音楽家のための体幹トレーニング。
9	音楽家のための英語。
10	沼田園子講師によるレッスン（1）
11	井野辺大輔講師によるレッスン（1）
12	井野辺大輔講師によるレッスン（2）
13	音楽家のための体幹トレーニング。
14	音楽家のための英語。
15	安藤裕子講師他によるレッスン（1）

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2801E0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	藤井 むつ子、伊藤 康英、松本 祐二、クリストファー ハーディ、前田 康德、幸西 秀彦						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

各種打楽器の、オーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、そして音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性などを学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多様な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

2. 授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	オーケストラスタディ 1 : オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ 2 : 主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ 3 : 20世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究 1 : 吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究 2 : 吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究 3 : 吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	マリンバの歴史について 1 : 数ある打楽器の中で、特に「マリンバ」を取り上げ、深く学習する。楽器の成り立ちと歴史に対する知識を深める。
8	マリンバの歴史について 2 : 日本におけるマリンバの歴史について。
9	音楽療法入門 1 : 障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門 2 : 色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わる事が出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ 1 : ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて 2 : 小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器とエレクトロニクスについて 1 : P A を使用する音楽について。P A 機材についての入門的な知識を得、その使用法を学ぶ。
14	打楽器とエレクトロニクスについて 2 : P A 機材を用いた新しい音の作り方についての研究。
15	打楽器奏法実習 1 : カスタネットの奏法研究。

授業計画	
1	オーケストラスタディ4：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ5：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ6：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ7：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ8：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究4：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	オーケストラ、吹奏楽などの中での打楽器演奏の研究から発展させ、打楽器アンサンブル・室内楽について実演を交えながら考察する。
8	マリンバの歴史3：マリンバの歴史の中での主要作品についての研究と、それらの作品の作曲家についての知識を深める。
9	マリンバの歴史4：国内外のマリンバ奏者について。異なった世代、国籍、活動の傾向の奏者を取り上げ、実際の音源で彼等の演奏を聴くことを交えながら演奏スタイルや音色について考察する。
10	音楽療法入門3：打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス3：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス4：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	打楽器とエレクトロニクス3：電子機材、電子楽器を使用した、これからの時代の音、音楽について考察する。
14	打楽器奏法実習2：カホンの奏法研究。
15	打楽器奏法研究3：ボディーパーカッション。身体、声を打楽器として使用する音楽作りについての研究。

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE2801F0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・・70%、課題評価・・・30%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガン概論
2	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガン解剖 ボイスエディット研究
3	電子オルガンスタジオエレクトロニクス ボイスエディット研究 2
4	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（木管楽器）
5	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（木管楽器 2）
6	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（金管楽器）
7	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（金管楽器）
8	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（弦楽器）
9	電子オルガン奏法研究 アコースティック楽器と比較しながらの奏法実習（弦楽器 2）
10	電子オルガン奏法研究 近現代作品の演奏法研究
11	電子オルガン奏法研究 近現代作品の奏法と音色研究
12	バンドアレンジ研究 バンドアレンジ概論
13	バンドアレンジ研究 課題の分析
14	バンドアレンジ研究 コードプログレッション研究
15	バンドアレンジ研究 課題のアレンジ実習 構成の考え方

授業計画	
1	バンドアレンジ研究 アレンジ曲の演奏
2	バンドアレンジ研究 アレンジ曲のアンサンブルと音色研究
3	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際
4	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際
5	ポピュラー演奏法 ジャズオルガンの歴史
6	ポピュラー演奏法 ジャズオルガン奏法の研究
7	ポピュラー演奏法 コードプログレッションの応用
8	即興演奏実習 モチーフを使ったクラシックスタイル即興演奏の実際
9	即興演奏実習 クラシックスタイルの即興演奏2
10	即興演奏実習 ポピュラースタイルのモチーフ即興演奏の実際
11	管楽器コンチェルト研究 授業概論と選曲
12	管楽器コンチェルト研究 スコアリーディングを通して、音楽解釈をする。
13	管楽器コンチェルト研究 管楽器との音合わせとバランスの研究
14	管楽器コンチェルト研究 アンサンブルを通しての音色並びに奏法研究
15	管楽器コンチェルト研究 アンサンブルからソロの楽器の奏法を学ぶ・

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2801G0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「プロフェッショナル特殊研究3」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	〔前期〕 大学院修士課程 1 年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2 年目の「プロフェッショナル特殊研究 3」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師 A レッスン（第 1 クール）～古典独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師 A レッスン（第 1 クール）～古典独奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師 A レッスン（第 1 クール）～古典独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師 A レッスン（第 1 クール）～古典独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師 A レッスン（第 1 クール）～古典独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師 B レッスン（第 2 クール）～古典合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師 B レッスン（第 2 クール）～古典合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師 B レッスン（第 2 クール）～古典合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師 B レッスン（第 2 クール）～古典合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師 B レッスン（第 2 クール）～古典合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
11	講師 C レッスン（第 3 クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師 C レッスン（第 3 クール）～現代邦楽独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師 C レッスン（第 3 クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師 C レッスン（第 3 クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師 C レッスン（第 3 クール）～現代邦楽独奏曲研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	〔後期〕 講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2802A0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。

【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 (1) 鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 (2) 音階と調
13	ピアニストのための即興講座 (3) 調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 (4) カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 (5) バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 (6) 伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 (7) 非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 (8) より自由な発想による即興と創作プラン (カデンツァ)
4	ピアニストのための即興講座 (9) 調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 (10) 統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラーマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2802C0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

2年次はさらに高度なオーケストラスタディや演奏法を研究する。

2. 授業概要

年度初めに以下の2項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。

A＝特別アンサンブル研究1. 2（小編成）

ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

B＝室内オーケストラ研究1. 2

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。

室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

4. 成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

A＝3～8重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	〔前期〕 A＝特別アンサンブル研究 1. 2（小編成） 前期 研究発表会（7月・講堂） 後期 アンサンブル研究コンサート（12月・講堂） B＝室内オーケストラ研究 1. 2
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究 三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究 四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究 四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究 五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究 五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究 六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲 研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲 研究演奏練習）
11	特別アンサンブル研究（五重奏曲 研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏（序曲 研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習）
15	特別アンサンブル研究（研究演奏会）

授業計画	
	〔後期〕 A＝特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成) 後期 アンサンブル研究コンサート (12月・講堂) B＝室内オーケストラ研究 1. 2 大学院コンチェルトのタベ (10月・前田ホール)
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析(フルート)
3	特別アンサンブル研究 1. 2 ピアノ三重奏曲の分析 (オーボエ)
4	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析 (クラリネット)
5	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析 (サクソフォン)
6	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (フルート)
7	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (オーボエ)
8	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (クラリネット)
9	特別アンサンブル研究 金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) 弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究 (オラトリオアンサンブル研究コンサート練習)
13	特別アンサンブル研究 (アンサンブル研究コンサート演奏会)
14	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート練習)
15	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート演奏会)

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	IE2802E0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	藤井 むつ子、伊藤 康英、松本 祐二、クリストファー ハーディ、前田 康德、幸西 秀彦						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

各種打楽器の、オーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、そして音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性などを学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多様な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

2. 授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	オーケストラスタディ 1 : オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ 2 : 主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ 3 : 20世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究 1 : 吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究 2 : 吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究 3 : 吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	マリンバの歴史について 1 : 数ある打楽器の中で、特に「マリンバ」を取り上げ、深く学習する。楽器の成り立ちと歴史に対する知識を深める。
8	マリンバの歴史について 2 : 日本におけるマリンバの歴史について。
9	音楽療法入門 1 : 障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門 2 : 色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わる事が出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ 1 : ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて 2 : 小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器とエレクトロニクスについて 1 : P A を使用する音楽について。P A 機材についての入門的な知識を得、その使用法を学ぶ。
14	打楽器とエレクトロニクスについて 2 : P A 機材を用いた新しい音の作り方についての研究。
15	打楽器奏法実習 1 : カスタネットの奏法研究。

授業計画	
1	オーケストラスタディ 4 : オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ 5 : 実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ 6 : オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ 7 : ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ 8 : シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究 4 : 具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	オーケストラ、吹奏楽などの中での打楽器演奏の研究から発展させ、打楽器アンサンブル・室内楽について実演を交えながら考察する。
8	マリンパの歴史 3 : マリンパの歴史の中での主要作品についての研究と、それらの作品の作曲家についての知識を深める。
9	マリンパの歴史 4 : 国内外のマリンパ奏者について。異なった世代、国籍、活動の傾向の奏者を取り上げ、実際の音源で彼等の演奏を聴くことを交えながら演奏スタイルや音色について考察する。
10	音楽療法入門 3 : 打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス 3 : 鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス 4 : 金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	打楽器とエレクトロニクス 3 : 電子機材、電子楽器を使用した、これからの時代の音、音楽について考察する。
14	打楽器奏法実習 2 : カホンの奏法研究。
15	打楽器奏法研究 3 : ボディーパーカッション。身体、声を打楽器として使用する音楽作りについての研究。

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2802G0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GH	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「プロフェッショナル特殊研究4」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 研究成果発表と講評
6	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 研究成果発表と講評
11	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第一段階・・・問題点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第二段階・・・問題点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究 3						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2803D0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

著名なアーティスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

2. 授業概要

世界的に活躍する著名なアーティスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	〔前期〕
1	オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン（1）
3	山本裕康講師によるレッスン（1）
4	大野かおる講師によるレッスン（1）
5	須田祥子講師によるレッスン（1）
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン（1）
7	室内管弦楽団
8	音楽家のための体幹トレーニング。
9	音楽家のための英語。
10	沼田園子講師によるレッスン（1）
11	井野辺大輔講師によるレッスン（1）
12	井野辺大輔講師によるレッスン（2）
13	音楽家のための体幹トレーニング。
14	音楽家のための英語
15	安藤裕子講師他によるレッスン（1）

授業計画	
	[後期]
1	オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン（1）
3	山本裕康講師によるレッスン（1）
4	大野かおる講師によるレッスン（1）
5	須田祥子講師によるレッスン（1）
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン（1）
7	室内管弦楽団
8	音楽家のための体幹トレーニング。
9	音楽家のための英語。
10	沼田園子講師によるレッスン（1）
11	井野辺大輔講師によるレッスン（1）
12	井野辺大輔講師によるレッスン（2）
13	音楽家のための体幹トレーニング。
14	音楽家のための英語。
15	安藤裕子講師他によるレッスン（1）

科目名	プロフェッショナル特殊研究 3						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2803G0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業末ジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「プロフェッショナル特殊研究1」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究1」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究１」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師D レッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師D レッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師D レッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師D レッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師D レッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師E レッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師E レッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師E レッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師E レッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師E レッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師F レッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師F レッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師F レッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師F レッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師F レッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究3						
代表教員	今田 央	授業コード	IE2803H0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

フラメンコ音楽に特有の各形式、リズム、フラメンコギターの数々の特殊奏法をマスターし、フラメンコギターソロ演奏を習得する。また、その技術をフラメンコのリズム、旋法を取り入れたスペインクラシックギターレパートリーの演奏にも応用させる。ポピュラー音楽への応用も研究する。

2. 授業概要

実際にフラメンコギターを使用して形式ごとのリズム、旋法、各種特殊奏法の習得。講義としてはフラメンコ音楽発生の歴史、時代背景、地理的要因などを考察。フラメンコ舞踊手やフラメンコ歌手の伴奏も体験しフラメンコ芸術の三位一体（歌、踊り、ギター）の重要性を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

フラメンコの典型であるソレア、ブレリア、アレグリアなどの舞曲から教員が選定した物

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1学年において「フラメンコギター奏法研究」を履修したもの

授業計画	
	フラメンコギターの特長奏法、各型式の習得 毎回講義としてフラメンコ発生の歴史、地理的要因等の解説
1	フラメンコギターの特長奏法の一つである各種”ラスゲアード”の解説、及びクラシックギターとの音の出し方（タッチ）の違いを学ぶ。
2	様々なラスゲアード奏法を実践する。
3	ラスゲアード奏法の練習法を指導する。
4	フラメンコの形式の一つ”ソレア”（3拍子系のリズム）を解説し理解させる。
5	”ソレア”の簡単なフレーズを習得させる。
6	”ソレア”という形式を実際の演奏を通じ研究する。
7	”ソレア”から派生したいくつかの形式の解説、およびそれぞれのフレーズを習得させる。
8	フラメンコの形式の一つ”タンゴ”（2拍子系）の解説を解説する。
9	”タンゴ”における簡単なフレーズを習得する。
10	過去の演奏を聴き”タンゴ”のより深い理解を求める。
11	”タンゴ”から派生した他の2拍子系の形式の解説する。
12	”タンゴ”のリズムによる楽曲を解説する。
13	”タンゴ”のリズムによる楽曲を実践する。
14	上記に属さない他の形式の解説とフレーズの習得
15	前期まとめの発表演奏をさせる。

授業計画	
	前期で培った技術、知識を基にフラメンコギターソロの演奏を研究していく。機会があればフラメンコにおける三位一体を体験する。
1	クラシックギターのレパートリーにおけるフラメンコの影響を考察する。
2	スペイン音楽の中のフラメンコの影響を考察する。
3	ラテン、ポピュラー等、現代の軽音楽へのフラメンコの影響を考察する。
4	クラシックギターのレパートリーの中でのフラメンコ奏法の実践を試みる。
5	ポピュラー音楽の中でいかにフラメンコ奏法を活用するかを考察する。
6	イサーク・アルベニスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
7	エンリケ・グラナドスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
8	マヌエル・デ・ファリヤの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
9	マヌエル・デ・ファリヤの生涯と作品について考察する。
10	マヌエル・デ・ファリヤのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ホアキン・ロドリーゴのアランフェス協奏曲を研究する。
12	アランフェス協奏曲におけるラスゲアード奏法を研究する。
13	トゥリーナのフラメンコを取り入れた楽曲を研究する。
14	トゥリーナの他の楽曲を研究する。
15	最終発表演奏をする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究 4						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2804G0	科目コード	IE2804	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスングuest講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。

総合的判断の基本線は下記の通り。

・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「プロフェッショナル特殊研究2」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究2」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師A レッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評
6	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師B レッスン（第2クール）～現代音楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要問題点の克服
15	講師C レッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師D レッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師D レッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師D レッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師D レッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師D レッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師E レッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師E レッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師E レッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師E レッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師E レッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師F レッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師F レッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師F レッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第一段階・・・改善必要点の洗い出し
14	講師F レッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第二段階・・・改善必要点の克服
15	講師F レッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究 4						
代表教員	金子 浩	授業コード*	IE2804H0	科目コード*	IE2804	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	1 学年において古楽器演奏方（リュート奏法）を履修し単位を取得したも者						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現在、クラシックギター奏者には19世紀に確立したクラシックギターのためのオリジナル楽曲のみならず、16世紀から現代のワールドミュージックに到るまでの幅広い演奏技術と作品解釈が求められている。本講座はこうした状況に対し、リュートやバロックギターなど16世紀から18世紀に用いられた古楽器の演奏方を実践、研究するものである。

2. 授業概要

リュートやバロックギターの奏法をオリジナル楽器を用いて実践することにより、ルネッサンスやバロックの音楽の解釈やオリジナル奏法の有効性を追求する。最終的には発表会や実技試験、演奏会などでもオリジナル楽器の演奏ができるよう指導する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習、次回の講座の課題曲の研究。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ルイス・ミラン「エル・マエストロ」
 ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの6部の譜本」
 ジョン・ダウランド「リュート曲全集」
 フランチェスコ・デ・ミラノ「リュート曲全集」
 ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」
 レオポルト・シルビオス・ヴァイス「バロックリュート曲集」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1 学年において古楽器演奏法（リュート奏法）を履修した者

授業計画	
	16世紀から18世紀における撥弦楽器の歴史を考察する。
1	16世紀スペインのビウエラ音楽の作品と作曲者の研究
2	ルイス・ミランの「エル・マエストロ」における楽曲とタブラチュアの考察
3	ルイス・ミラン「6つのパヴァーヌ」演奏指導と解釈
4	ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの6部の譜本」の背景と作品の考察
5	ルイス・ド・ナルバエス「皇帝の歌」の原曲と奏法解釈の考察
6	ルイス・ド・ナルバエス「牛を見張れによるディファレンシ阿斯」の意義と演奏法研究
7	アロンソ・ムダーラ「ルドヴィコのハーブを模したファンタジー」の意義と演奏法研究
8	ジョン・ダウランドの作品とイギリスのリュート音楽、および歴史的背景の考察
9	ジョン・ダウランド「涙のパヴァーヌ」の演奏法と作品解釈
10	ジョン・ダウランド「カエルのガリアルダ」の演奏法と作品解釈
11	ジョン・ダウランド「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
12	フランチェスコ・ミラノの作品とイタリアのリュート音楽の考察
13	フランチェスコ・ミラノ「リチェルカーレ」の演奏法と作品解釈
14	前期まとめとしての発表曲の選定と演奏法の指導
15	前期まとめの発表演奏と講評

授業計画	
	後期授業の展望：バロック時代の撥弦楽器の歴史と作品、楽器について
1	フランスバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
2	ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」より組曲ニ短調の楽曲構成と演奏法の解説
3	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりプレリュード、アルマンドの演奏法と解釈、実践
4	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりサラバンド、メヌエットの演奏法と解釈、実践
5	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりガヴォット、ブーレ、ジークの演奏法と解釈、実践
6	ドイツバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
7	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
8	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「パッサカリア」の演奏法と作品解釈
9	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「シャコンヌ」の演奏法と作品解釈
10	ホアキン・トゥリーナのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ヨハン・セバスティアン・バッハのリュート作品についての考察
12	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第1番BWV996」の演奏法と作品解釈
13	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第2番BWV997」の演奏法と作品解釈
14	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第3番BWV995」の演奏法と作品解釈
15	最終発表演奏と講評

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE281100	科目コード	IE2811	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。(クラシック) 電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。(ポピュラー) 電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

2. 授業概要

指揮者と共に電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル実習(クラシック)
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習(ポピュラー)

3. 授業時間外の学習(予習復習について)

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点(演奏の準備状況(評価の50%))
楽曲に対する理解力、表現力(評価の50%)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)

アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究
3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習
5	クラシックアンサンブルの実習④パート毎の音色研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
9	クラシックアンサンブル実習⑧ 楽器と奏法の関係について
10	クラシックアンサンブル実習⑨ 楽器と奏法の関係について
11	クラシックアンサンブル実習⑩ 曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析
15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し

授業計画	
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ
3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習 演奏会課題曲の楽曲分析
6	クラシックアンサンブル実習 2台又は3台のアンサンブルのためのパート分け研究
7	クラシックアンサンブル実習 演奏会用課題曲のアンサンブル音出し
8	クラシックアンサンブル実習 演奏会用課題曲の音出しとバランス研究
9	クラシックアンサンブル実習 ソリストとの合わせ
10	クラシックアンサンブル実習 ソリストとの合わせ ホールでのバランスや音作り
11	スコアリーディング研究 課題曲の譜読み
12	スコアリーディング研究 譜読みと分析
13	スコアリーディング研究 音色研究
14	スコアリーディング研究 フレーズの解釈と表現
15	スコアリーディング研究 本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	作曲・編曲法 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE282100	科目コード	IE2821	期間	通年
担当教員	大竹 くみ、三宅 康弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンは、楽器を演奏し、レジストレーションを作るだけでなく、作曲・編曲能力も求められる楽器である。つまり、音楽家としての総合的な力を求められているのである。

2. 授業概要

本授業では、三宅康弘講師による「電子オルガン作品分析」で、日本及びオランダの電子オルガンのオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。また、大竹くみ講師による「作曲・編曲演習」では、さまざまなスタイルの作品を書けるように、オーケストレーションを含む編曲法などの実習をする。そしてそれらを総合させ、電子オルガンオリジナル曲を作曲し、発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実際の作品を分析、実習を行う授業のため、予習、復習は積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、研究過程、作品提出を総合的に考慮して評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
1	授業の概要と目標設定
2	古典派作品の分析
3	古典派作品の分析、作曲法の考察
4	ロマン派作品の分析
5	ロマン派作品の分析 作曲法の考察
6	バロック期作品の分析
7	バロック期作品の分析 作曲法の考察
8	20世紀以降の作品分析
9	20世紀以降の作品分析 作曲の考察
10	スタイルとモチーフの決定
11	モチーフの発展の仕方の研究
12	モチーフの発展と構成
13	フレーズとモチーフの関係について
14	フレーズとモチーフの関係について 2
15	記譜法の研究

授業計画	
1	電子オルガンの楽曲の分析
2	電子オルガンの楽曲の演奏を通して、編曲の方法を分析する。
3	電子オルガンの楽曲の演奏を通して、様々な編曲のスタイルを研究
4	電子オルガンの現代作品分析と演奏
5	電子オルガンの現代作品を演奏を通して分析
6	楽器法から考察するフレーズの作り方
7	楽器法から考察するフレーズの作り方2
8	時代や様式による演奏法について研究
9	作曲、編曲時の様式設定の考え方
10	様式の設定と編曲のテーマを決定
11	オーケストレーション研究
12	作品の経過の確認
13	作品の経過の確認2
14	授業内発表（自分の作品分析と演奏）
15	授業内発表（自分の作品分析と演奏の工夫について）

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2841A0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏、等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（２）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（３）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（４）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（５）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（３）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究（４）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（５）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（２）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（３）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（４）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（５）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（１）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（２）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（１）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（２）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（３）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（１）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（２）～プリエ・パットマン・タンデュからグラン・パットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（３）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（４）～ダンサーとのバーレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（５）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（６）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（７）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（８）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（９）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2841C0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。
不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	〔前期〕 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ヘンデル）
2	アンサンブル研究（バッハ）
3	アンサンブル研究（モーツァルト）
4	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
5	アンサンブル研究（ハイドン）
6	アンサンブル研究（シューマン）
7	アンサンブル研究（ブラームス）
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	〔後期〕 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ドビュッシー）
2	アンサンブル研究（フォーレ）
3	アンサンブル研究（ラヴェル）
4	アンサンブル研究（フランセ）
5	アンサンブル研究（ミヨー）
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）
7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2841D0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	〔前期〕
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	〔後期〕
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	山澤 洋之	授業コード	IE2841E0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察する。
また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する。
積極的な作曲活動も視野に入れる。

2. 授業概要

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Ostinato Pianissimo/Henry Cowell
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を取り上げる予定

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習は当然の事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含む）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	前期まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	〔後期〕 ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	後期まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2841G0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

2. 授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。

総合的判断の基本線は下記の通り。

・ 演習への姿勢＝25% ・ 演奏への取り組み＝25% ・ 演奏実績及びその成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画	
1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2842A0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏、等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（１）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（２）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（３）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（４）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（５）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（１）～オペラにおけるコレペティトゥアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（２）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（３）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究（４）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（５）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（２）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（３）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（４）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（５）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（１）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（２）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（１）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（２）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（３）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（１）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（２）～プリエ・パットマン・タンデュからグラン・パットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（３）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（４）～ダンサーとのバーレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（５）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（６）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（７）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（８）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（９）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2842C0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。
不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	〔前期〕 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ヘンデル）
2	アンサンブル研究（バッハ）
3	アンサンブル研究（モーツァルト）
4	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
5	アンサンブル研究（ハイドン）
6	アンサンブル研究（シューマン）
7	アンサンブル研究（ブラームス）
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	〔後期〕 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ドビュッシー）
2	アンサンブル研究（フォーレ）
3	アンサンブル研究（ラヴェル）
4	アンサンブル研究（フランス）
5	アンサンブル研究（近、現代）
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）
7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2842D0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	〔前期〕
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	〔後期〕
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	山澤 洋之	授業コード	IE2842E0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察する。
また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する。
積極的な作曲活動も視野に入れる。

2. 授業概要

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Ostinato Pianissimo/Henry Cowell
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を取り上げる予定

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習は当然の事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含む）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	前期まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	〔後期〕 ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	後期まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2842G0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

2. 授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。

総合的判断の基本線は下記の通り。

・ 演習への姿勢＝25% ・ 演奏への取り組み＝25% ・ 演奏実績及びその成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画	
1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2842H0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	小林 すぎ野、泉 真由						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

クラシックギターの他楽器とのアンサンブルにおいて、最も重要なレパートリーであるフルートとの二重奏に焦点を当て、即戦力となる読譜力や演奏技術を身につけることを目標とする。

2. 授業概要

第一線で活躍するフルート講師の指導のもと、フルートとギターの代表曲を実践、実習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業前の譜読み、練習、またクラシックギターコース演奏会への出演。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度と演奏会の評価から総合的に判断。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス フルートとギターのアンスンブルについて
2	フルートとギターのアンスンブルのための基礎練習
3	フルートとギターアンスンブルのレパートリー紹介
4	フルートとギターによるバロック時代の楽曲紹介
5	フルートとギターによるバロック時代の楽曲練習1
6	フルートとギターによるバロック時代の楽曲練習2
7	古典派時代のフルートとギターによるアンスンブル曲の紹介
8	古典派時代のフルートとギターによるアンスンブル曲の練習1
9	古典派時代のフルートとギターによるアンスンブル曲の練習2
10	前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の練習1
12	前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の練習2
13	前期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題

授業計画	
1	ガイダンス 後期のフルートとギターのアンスンブルの課題と目標
2	ロマン派のフルートとギターのアンスンブル曲の紹介
3	ロマン派のフルートとギターのアンスンブル曲の練習1
4	ロマン派のフルートとギターのアンスンブル曲の練習2
5	ロマン派のフルートとギターのアンスンブル曲の練習3
6	近・現代のフルートとギターによるアンスンブル曲の 紹介
7	近・現代のフルートとギターによるアンスンブル曲の 練習1
8	近・現代のフルートとギターによるアンスンブル曲の練習2
9	近・現代のフルートとギターによるアンスンブル曲の練習3
10	後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の練習1
12	後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲の練習2
13	後期クラシックギター演奏会のフルートとギターによる アンスンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	現代曲の奏法と研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE285100	科目コード	IE2851	期間	半期(後期)
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

2. 授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	〔半期〕 注1：11～12月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	トランペットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会①
14	研究演奏発表会② 注1
15	まとめとレポート提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	現代曲の奏法と研究 2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE285200	科目コード	IE2852	期間	半期(後期)
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

2. 授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	〔半期〕 注1：11～12月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	トランペットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会①
14	研究演奏発表会② 注1
15	まとめとレポート提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究 1						
代表教員	古川 玄一郎	授業コード	IE286100	科目コード	IE2861	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲者たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察する。

2. 授業概要

今年度は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を中心に研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

20世紀までの音楽史を理解しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス
2	オーケストラに導入される非楽音「交響曲第6番」(G. マーラー)、「パリのアメリカ人」(G. ガーシュイン)、「パレード」(E. サティ)
3	室内楽①「兵士の物語」(I. ストラヴィンスキー)、「バレエ・メカニック」(G. アンタイル)、「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B. バルトーク)、「夏の夜の音楽」(G. クラム)、「linea」(L. ペリオ)
4	室内楽②(打楽器アンサンブル) 「鼻」(D. ショスタコーヴィチ)、「イオニザシオン」(E. ヴァーレーズ)、「2組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟)他
5	J. ケージ①(プリペアドピアノ考案～4' 33'')
6	J. ケージ②(打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽「L. アンダーソン、S. ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーパレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜「ツィクルス」(K. シュトックハウゼン)、「デンマークの王様」(M. フェルドマン)、「サッフア」(I. クセナキス) 他
9	武満徹「ムナーリバイムナーリ」「四季」「冬」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」
10	まとめ、レポート
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	[後期]
1	S. ライヒ①(初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S. ライヒ②(Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容「Überlagerung und Verschiebung」(K. オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G. コッ チェ)、CD「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容「24のカプリース」(N. パガニーニ)、「パガニーニパーソナル」(一柳慧)、「パガニーニ ジャズ」(F. サイ)
5	フルクサスとコンセプチュアルアート(D. チュードア、小杉武久、J. マチューナス、N. J. パイク、J. ブレクト)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」(V. グロヴォカール)、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」 (J. ケージ)、「To The Earth」(F. ジェフスキ)、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	静的な打楽器(J. グリゼイ、M. フェルドマン他)
8	エレクトロニクス「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N. ウェストレイク)、「テマツカル」(J. アルバレッツ)他
9	シアターミュージック「aphasia」(M. アップルバウム)、「これはボールではない」(A. エスペレ他)「Silence Must be!」 (T.D. メイ)他
10	まとめ、レポート
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究 2						
代表教員	古川 玄一郎	授業コード	IE286200	科目コード	IE2862	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲者たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察する。

2. 授業概要

今年度は19世紀初頭から現在に至るまでの打楽器芸術の遷移とその表現方法を中心に研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

20世紀までの音楽史を理解しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス
2	オーケストラに導入される非楽音「交響曲第6番」(G. マーラー)、「パリのアメリカ人」(G. ガーシュイン)、「パレード」(E. サティ)
3	室内楽①「兵士の物語」(I. ストラヴィンスキー)、「バレエ・メカニック」(G. アンタイル)、「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B. バルトーク)、「夏の夜の音楽」(G. クラム)、「linea」(L. ベリオ) 他
4	室内楽②「鼻」(D. ショスタコーヴィチ)、「イオニザシオン」(E. ヴァーレーズ)、「2組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟)
5	J. ケージ①(プリペアドピアノ考案～4' 33")
6	J. ケージ②(打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽「L. アンダーソン、S. ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーパレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜「ツィクルス」(K. シュトックハウゼン)、「デンマークの王様」(M. フェルドマン)、「サッフア」(I. クセナキス) 他
9	武満徹「ムナーリバイムナーリ」「四季」「冬」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」
10	まとめ、レポート
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	[後期]
1	S. ライヒ①(初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S. ライヒ②(Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容「Überlagerung und Verschiebung」(K. オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G. コッ チェ)、CD「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容「24のカプリース」(N. パガニーニ)、「パガニーニパーソナル」(一柳慧)、「パガニーニ ジャズ」(F. サイ)
5	フルクサスとコンセプチュアルアート(D. チュードア、小杉武久、J. マチューナス、N. J. パイク、J. ブレクト)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」(V. グロヴォカール)、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」 (J. ケージ)、「To The Earth」(F. ジェフスキ)、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	静的な打楽器(J. グリゼイ、M. フェルドマン他)
8	エレクトロニクス「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N. ウェストレイク)、「テマツカル」(J. アルバレッツ)他
9	シアターミュージック「aphasia」(M. アップルバウム)、「これはボールではない」(A. エスペレ他)「Silence Must be!」 (T.D. メイ)他
10	まとめ、レポート
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	コンチェルト研究 1						
代表教員	江崎 昌子	授業コード	IE287100	科目コード	IE2871	期間	通年
担当教員	北島 公彦、外山 啓介、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

2. 授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

4. 成績評価の方法及び基準

出席日数及びコンチェルト研究演奏会出演

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて)
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究)
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ)
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ)
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ)
9	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ)
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ)
12	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて)
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	コンチェルト研究 2						
代表教員	江崎 昌子	授業コード	IE287200	科目コード	IE2872	期間	通年
担当教員	北島 公彦、外山 啓介、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

2. 授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

4. 成績評価の方法及び基準

出席日数及びコンチェルト研究演奏会出演

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて)
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究)
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ)
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ)
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ)
9	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ)
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ)
12	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて)
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	オルガンの様式と奏法の研究 1						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE287300	科目コード	IE2873	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	OR	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

パイプオルガンの起源は紀元前3世紀まで遡ることができるが、初期のオルガンは機能や用途が現代のものとは大きく異なっていた。やがてヨーロッパに渡り、10世紀頃からキリスト教会で用いられるようになると飛躍的に発達していった。そして国や地域、時代ごとに独自の特性を持つ楽器が製作され、更にその個性豊かな楽器から多種多様なオルガン作品が生まれたのである。

本講座ではまずオルガンの歴史と構造を学び、その上で各地域、時代のオルガンと楽曲の特性を学んでいく。そしてその知識が、実際の演奏に反映できるようになることが最終的な目標である。またオルガニストにとって大切な技術の1つである音色作り＝レジストレーションの基礎を学び、実践に応用できる力を身につけることも重要な目標である。

2. 授業概要

前期はオルガンの歴史と構造、そしてレジストレーションの基礎を学んでいく。そして後期は各国、各地域のオルガンの特徴や、日本のオルガンの現状を学ぶ。また首都圏にある様々なタイプのオルガンを見学し、その特色を見聞する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

オルガニストにとって必須の事柄を学ぶ授業なので、授業時間外にも自分で本を読んで予習し、また知識を実際の演奏に活かせるように定着させること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「オルガン音楽のふるさと」NHKオルガン研究会 NHK出版

「オルガンのすべて」 ハンス・クロッツ著 藤野薫訳 パックスヴィジョン社

参考書・参考資料等は授業内で、適宜資料を配布する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス、授業の進め方
2	オルガンの歴史について(1) 起源から中世まで
3	オルガンの歴史について(2) 13世紀～15世紀
4	オルガンの構造について(1) 概要、音が出るしくみ
5	オルガンの構造について(2) パイプの発音原理
6	オルガンの構造について(3) フルパイプの種類
7	オルガンの構造について(4) リードパイプの種類
8	オルガンの構造について(5) 送風装置
9	オルガンの構造について(6) 鍵盤とアクション
10	オルガンの構造について(7) 風箱について
11	レジストレーションについて(1) 基礎、ストップの種類と重ね方
12	レジストレーションについて(2) ドイツのオルガンのストップとレジストレーションの実際
13	レジストレーションについて(3) フランスのオルガンのストップとレジストレーションの実際
14	レジストレーションについて(4) イタリア、スペインなどのストップとレジストレーションの実際
15	オルガンの歴史と構造、レジストレーションについてのレポートとまとめ

授業計画	
1	イタリアのオルガンについて
2	スペインのオルガンについて
3	オランダ、北ドイツのオルガンについて A. シュニットガーなど
4	中部ドイツのオルガンについて G. ジルバーマンなど
5	南ドイツ、オーストリアのオルガンについて
6	バッハが演奏したオルガンについて
7	ドイツロマン派のオルガンについて ラーデガスト、ザウアーなど
8	フランス古典のオルガンについて(1) クリコなどパリ型のオルガン
9	フランス古典のオルガンについて(2) A. ジルバーマン、ドン・ベドスなど
10	フランスロマン派のオルガンについて カヴァイエ・コルなど
11	イギリスのオルガンについて
12	オルガンの近代化、ユニバーサル化
13	日本のオルガンの歴史
14	日本のオルガンの現状
15	各地のオルガンについてのレポートとまとめ

科目名	チェンバロ研究 [火5]						
代表教員	上 蘭 未佳	授業コード	IE288000	科目コード	IE2880	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

ピアニストにとって、チェンバロを学ぶことは、J. S. バッハを代表とするバロック音楽の理解を深め演奏する上で欠かせないことのひとつです。
この授業では、バッハは勿論、それ以前の様々な作曲家のチェンバロ作品に触れ、そのエキサイティングな魅力に迫ります。そして、チェンバロの歴史、奏法や装飾音などを始めとする演奏習慣、さらに、調律法、通奏低音奏法などを幅広く学ぶことによって、自らのピアノ奏法に活かし、より豊かな音楽性を育むことがねらいです。

2. 授業概要

- チェンバロの歴史、種類、構造について
- チェンバロ奏法、演奏習慣、調律法、通奏低音奏法について
- 後期ルネサンスから後期バロックまでの多彩な作品の演奏。CD鑑賞。
- 「冬の音楽祭」で開催される「バロックとその周辺の音楽」演奏会の参加希望者へのレッスン（ソロ及びアンサンブル）

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられる課題曲の予習及び復習をして臨むこと。出来る限り、チェンバロで練習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、及び、前期後期の最後の授業での演奏とレポートを総合的に考慮して評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「ハーブシコード・メソッド」（マリア・ボクソール／有田千代子訳、日本ショット）、「クラヴサン奏法」（フランソワ・クーブラン／山田貢訳、シンフォニア）、「正しいクラヴィーア奏法」（カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ著／東川清一訳、全音楽譜出版社）、「チェンバロ・フォルテピアノ」（渡邊順生著、東京書籍、2000）、「鍵盤調律法」（横田誠三著、2008）
Running the Numbers: A Thorough Figured Bass Workbook for Keyboard Players
(F. C. Fitch/J. Ashworth Loux Music Company/Dovehouse Editions 2012) 他。
授業内で必要な資料を適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に欠席する場合は、必ず事前に連絡することを厳守してください。

授業計画	
	〔前期〕 (グループ演習)
1	ガイダンス
2	チェンバロについて(歴史、種類、構造等)
3	チェンバロ奏法入門
4	ヴァージナル楽派①
5	ヴァージナル楽派②
6	イタリア初期バロック①
7	イタリア初期バロック②
8	ドイツ中期バロック①
9	ドイツ中期バロック②
10	フランス・クラヴサン楽派①
11	フランス・クラヴサン楽派②
12	後期バロック①
13	後期バロック②
14	後期バロック③
15	発表(演奏とレポート)

授業計画	
	[後期] (個人演習)
1	チェンバロ調律法入門
2	通奏低音奏法入門①
3	通奏低音奏法入門②
4	通奏低音奏法入門③
5	個人レッスン（後期ルネサンスから初期バロック）①
6	個人レッスン（後期ルネサンスから初期バロック）②
7	個人レッスン（後期ルネサンスから初期バロック）③
8	個人レッスン（中期バロック）①
9	個人レッスン（中期バロック）②
10	個人レッスン（中期バロック）③
11	個人レッスン（J.S. バッハまたは後期バロック）①
12	個人レッスン（J.S. バッハまたは後期バロック）②
13	個人レッスン（J.S. バッハまたは後期バロック）③
14	個人レッスン（J.S. バッハまたは後期バロック）④
15	発表（演奏とレポート）

科目名	音楽教育特殊研究 1						
代表教員	董 芳勝	授業コード	IE288100	科目コード	IE2881	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：子ども理解と礎とする音楽教育

到達目標：学理論的な根拠を理解し、教育課程の内容の批判的検証をした上、授業実践例を分析し、以上の成果により授業事例を構想する。

2. 授業概要

学校音楽教育は、子ども達が音（音楽）を遊ぶところから始まる。それは、音（音楽）が子ども達の生活に密着しており、音（音楽）の広がりや子どもの音楽への想いや願い、即ち音楽への志向性にまで及んでいるからである。したがって、豊かな人間性を育むには、学校の音楽教育においては、如何に子ども達の音楽への志向性を高めていくのが肝要となる。この視点に立ち、本講ではデューイやリーマーの教育論・芸術論を礎とし、子どもの主体的活動による音楽学習の可能性を追求する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	前期は、主に小学校児童を対象とし、子どもの目線から、音（音楽）と遊ぶことを通して、内面の志向性に及ぼす音（音楽）の広がりを体験し、即ち、「子ども理解」の視点による学校の音楽授業の在り方を探ることを目指し、以下の視点から授業を展開していきたい。 1) 実践的視点：小学校の音楽科の目標や内容等の検討 2) 人間教育の視点：音楽科教育の価値と問題点の検討
1	ガイダンス
2	音楽教育の歴史
3	音楽教育の哲学理論 1
4	音楽教育の哲学理論 2
5	音楽科の目標
6	音楽科の指導内容と評価
7	音楽科の教材研究
8	音楽科の歌唱活動の実践と指導
9	音楽科の器楽活動の実践と指導
10	音楽科の創作活動の実践と指導
11	音楽科の鑑賞活動の実践と指導
12	音楽科の伝統音楽の活動の実践と指導
13	「子ども理解」による音楽授業づくりの指導案作成
14	「子ども理解」による音楽授業づくりの実践
15	まとめ

授業計画	
	後期は、主に中高等学校の生徒を対象とし、以下の柱から音楽教育を考える。 1) 日中両国の中学校の音楽科の目標や内容の比較・検討 2) 感性と知性の統合を実践的な観点から明らかにしたデューイの「オキュペーション」概念 これらを踏まえ、子どもの活動の立場から日中の教育課程の問題点を捉え、さらに「オキュペーション」概念による授業を音楽科の各活動領域に当てはめて構想し、それらの授業の実演や検証を行う。
1	ガイダンス
2	中学校の音楽科教育の目標
3	中学校の音楽科教育の指導内容と評価
4	高等学校の音楽科教育の目標
5	高等学校の音楽科教育の指導内容と評価
6	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討 1
7	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討 2
8	日中の音楽科教育の授業実践の比較 1
9	日中の音楽科教育の授業実践の比較 2
10	日中の音楽科教員育成の比較
11	デューイの「オキュペーション」概念
12	デューイの「オキュペーション」概念による授業づくり
13	デューイの「オキュペーション」概念による授業の検証
14	教員養成における音楽科教育の課題
15	まとめ

科目名	音楽教育特殊研究 2						
代表教員	董 芳勝	授業コード	IE288200	科目コード	IE2882	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：子ども理解と礎とする音楽教育

到達目標：学理論的な根拠を理解し、教育課程の内容の批判的検証をした上、授業実践例を分析し、以上の成果により授業事例を構想する。

2. 授業概要

学校音楽教育は、子ども達が音（音楽）を遊ぶところから始まる。それは、音（音楽）が子ども達の生活に密着しており、音（音楽）の広がりや子どもの音楽への想いや願い、即ち音楽への志向性にまで及んでいるからである。したがって、豊かな人間性を育むには、学校の音楽教育においては、如何に子ども達の音楽への志向性を高めていくのが肝要となる。この視点に立ち、本講ではデューイやリーマーの教育論・芸術論を礎とし、子どもの主体的活動による音楽学習の可能性を追求する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	前期は、主に小学校児童を対象とし、子どもの目線から、音（音楽）と遊ぶことを通して、内面の志向性に及ぼす音（音楽）の広がりを体験し、即ち、「子ども理解」の視点による学校の音楽授業の在り方を探ることを目指し、以下の視点から授業を展開していきたい。 1) 実践的視点：小学校の音楽科の目標や内容等の検討 2) 人間教育の視点：音楽科教育の価値と問題点の検討
1	ガイダンス
2	音楽教育の歴史
3	音楽教育の哲学理論 1
4	音楽教育の哲学理論 2
5	音楽科の目標
6	音楽科の指導内容と評価
7	音楽科の教材研究
8	音楽科の歌唱活動の実践と指導
9	音楽科の器楽活動の実践と指導
10	音楽科の創作活動の実践と指導
11	音楽科の鑑賞活動の実践と指導
12	音楽科の伝統音楽の活動の実践と指導
13	「子ども理解」による音楽授業づくりの指導案作成
14	「子ども理解」による音楽授業づくりの実践
15	まとめ

授業計画	
	後期は、主に中高等学校の生徒を対象とし、以下の柱から音楽教育を考える。 1) 日中両国の中学校の音楽科の目標や内容の比較・検討 2) 感性と知性の統合を実践的な観点から明らかにしたデューイの「オキュペーション」概念 これらを踏まえ、子どもの活動の立場から日中の教育課程の問題点を捉え、さらに「オキュペーション」概念による授業を音楽科の各活動領域に当てはめて構想し、それらの授業の実演や検証を行う。
1	ガイダンス
2	中学校の音楽科教育の目標
3	中学校の音楽科教育の指導内容と評価
4	高等学校の音楽科教育の目標
5	高等学校の音楽科教育の指導内容と評価
6	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討 1
7	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討 2
8	日中の音楽科教育の授業実践の比較 1
9	日中の音楽科教育の授業実践の比較 2
10	日中の音楽科教員育成の比較
11	デューイの「オキュペーション」概念
12	デューイの「オキュペーション」概念による授業づくり
13	デューイの「オキュペーション」概念による授業の検証
14	教員養成における音楽科教育の課題
15	まとめ

科目名	音楽教育特殊研究 3						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE288300	科目コード	IE2883	期間	通年
担当教員	金井 公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：日本の伝統音楽の指導

到達目標：学校教育ないし学校外の教育の場における伝統音楽の指導・伝承について、その理念および方法と内容について理解・批判し、日本や東アジアの国々における自国の公教育あるいは専門教育における望ましい伝統音楽の指導・伝承を展望する。

2. 授業概要

2017年3月の学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂で、中学校では「唱歌（しょうが）」、幼稚園では「わらべうた」「伝統的な遊び」が示されるなど、オリンピックを控えた現在、国際社会における日本の伝統と現代の視座から、我が国の伝統文化がより重視されるようになった。日本の伝統音楽の担い手も学校音楽への関心が強まっている。このことを踏まえ、日本の伝統音楽の学校教育での指導、および専門教育における伝統的指導の諸相を理解し、さらに日本の数々の伝統音楽の源流ともなっている中国の伝統音楽の学校内外、あるいは専門家の指導・伝承など、東アジアの状況に対する理解を実習も含めて深めていく。なお、講義・実習についてはテーマに応じて学内外の講師を招聘した実施を含む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】伝統音楽教育の概要および学校における伝統音楽教育
1	ガイダンス
2	日本の学校教育における伝統音楽（その1）—学習指導要領・幼稚園教育要領における伝統音楽
3	日本の学校教育における伝統音楽（その2）—教科書における伝統音楽の扱い
4	日本の学校教育における伝統音楽（その3）—小学校における伝統音楽の指導場面
5	日本の学校教育における伝統音楽（その4）—中学校における伝統音楽の指導場面
6	韓国の学校教育における国楽（その1）—教育課程における国楽
7	韓国の学校教育における国楽（その2）—教科書・授業における国楽
8	中国の学校教育における伝統音楽・民族音楽（その1）—その諸問題
9	中国の学校教育における伝統音楽・民族音楽（その2）—教育課程における伝統音楽・民族音楽
10	教員養成における伝統音楽の指導（その1）—日本の教員養成学部 の現状
11	教員養成における伝統音楽の指導（その2）—日本の音楽大学の現状
12	教員養成における伝統音楽の指導（その3）—中国の教員養成（師範大学・音楽大学）の現状
13	国際化社会における自国・自民族の伝統音楽教育の課題（その1）—日本の場合
14	国際化社会における自国・自民族の伝統音楽教育の課題（その2）—東アジアの場合
15	総括

授業計画	
	【後期】専門家養成における伝統音楽
1	日本の伝統音楽の伝承の理念
2	琴箏類の伝承と指導（その1）—日本とアジアの琴箏類の諸相
3	琴箏類の伝承と指導（その2）—日本の箏の唱歌と基本的奏法
4	琴箏類の伝承と指導（その3）—日本の箏の演奏体験
5	琴箏類の伝承と指導（その4）—アジアの琴箏類
6	琴箏類の伝承と指導（その5）—日本と中国の古琴における精神性・芸術性
7	琴箏類の伝承と指導（その6）—中国の古琴の奏法
8	類箏類の伝承と指導（その7）—中国の古箏
9	笛の伝承と指導（その1）—日本とアジアの笛
10	笛の伝承と指導（その2）—篠笛の唱歌と基本的奏法
11	笛の伝承と指導（その3）—篠笛の演奏体験
12	笛の伝承と指導（その3）—能管の唱歌と基本的奏法
13	笛の伝承と指導（その4）—能管の演奏体験
14	東アジアの諸国・諸民族における伝統音楽の伝統と現代（その1）—学校教育における諸問題
15	東アジアの諸国・諸民族における伝統音楽の伝統と現代（その2）—学校と社会におけるあり方

科目名	音楽教育特殊研究 4						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE288400	科目コード	IE2884	期間	通年
担当教員	金井 公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：日本の伝統音楽の指導

到達目標：学校教育ないし学校外の教育の場における伝統音楽の指導・伝承について、その理念および方法と内容について理解・批判し、日本や東アジアの国々における自国の公教育あるいは専門教育における望ましい伝統音楽の指導・伝承を展望する。

2. 授業概要

2017年3月の学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂で、中学校では「唱歌（しょうが）」、幼稚園では「わらべうた」「伝統的な遊び」が示されるなど、オリンピックを控えた現在、国際社会における日本の伝統と現代の視座から、我が国の伝統文化がより重視されるようになった。日本の伝統音楽の担い手も学校音楽への関心が強まっている。このことを踏まえ、日本の伝統音楽の学校教育での指導、および専門教育における伝統的指導の諸相を理解し、さらに日本の数々の伝統音楽の源流ともなっている中国の伝統音楽の学校内外、あるいは専門家の指導・伝承など、東アジアの状況に対する理解を実習も含めて深めていく。なお、講義・実習についてはテーマに応じて学内外の講師を招聘した実施を含む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】伝統音楽教育の概要および学校における伝統音楽教育
1	ガイダンス
2	日本の学校教育における伝統音楽（その1）—学習指導要領・幼稚園教育要領における伝統音楽
3	日本の学校教育における伝統音楽（その2）—教科書における伝統音楽の扱い
4	日本の学校教育における伝統音楽（その3）—小学校における伝統音楽の指導場面
5	日本の学校教育における伝統音楽（その4）—中学校における伝統音楽の指導場面
6	韓国の学校教育における国楽（その1）—教育課程における国楽
7	韓国の学校教育における国楽（その2）—教科書・授業における国楽
8	中国の学校教育における伝統音楽・民族音楽（その1）—その諸問題
9	中国の学校教育における伝統音楽・民族音楽（その2）—教育課程における伝統音楽・民族音楽
10	教員養成における伝統音楽の指導（その1）—日本の教員養成学部 の現状
11	教員養成における伝統音楽の指導（その2）—日本の音楽大学の現状
12	教員養成における伝統音楽の指導（その3）—中国の教員養成（師範大学・音楽大学）の現状
13	国際化社会における自国・自民族の伝統音楽教育の課題（その1）—日本の場合
14	国際化社会における自国・自民族の伝統音楽教育の課題（その2）—東アジアの場合
15	総括

授業計画	
	【後期】専門家養成における伝統音楽
1	日本の伝統音楽の伝承の理念
2	琴箏類の伝承と指導（その1）—日本とアジアの琴箏類の諸相
3	琴箏類の伝承と指導（その2）—日本の箏の唱歌と基本的奏法
4	琴箏類の伝承と指導（その3）—日本の箏の演奏体験
5	琴箏類の伝承と指導（その4）—アジアの琴箏類
6	琴箏類の伝承と指導（その5）—日本と中国の古琴における精神性・芸術性
7	琴箏類の伝承と指導（その6）—中国の古琴の奏法
8	類箏類の伝承と指導（その7）—中国の古箏
9	笛の伝承と指導（その1）—日本とアジアの笛
10	笛の伝承と指導（その2）—篠笛の唱歌と基本的奏法
11	笛の伝承と指導（その3）—篠笛の演奏体験
12	笛の伝承と指導（その3）—能管の唱歌と基本的奏法
13	笛の伝承と指導（その4）—能管の演奏体験
14	東アジアの諸国・諸民族における伝統音楽の伝統と現代（その1）—学校教育における諸問題
15	東アジアの諸国・諸民族における伝統音楽の伝統と現代（その2）—学校と社会におけるあり方

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2885C0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

2. 授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に1回担当教員へ）

外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サクソオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画	
	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること
1	合奏指導法とは ガイダンス（後期は前期の報告とまとめ）
2	オーケストラ指導について①木管楽器
3	オーケストラ指導について②金管楽器
4	オーケストラ指導について③管打楽器
5	吹奏楽指導について①木管楽器の構造
6	吹奏楽指導について②金管楽器の構造
7	吹奏楽指導について③管打合奏
8	レポート提出と報告会
9	同属楽器アンサンブル（フルート）指導について
10	同属楽器アンサンブル（ダブルリード）指導について
11	同属楽器アンサンブル（クラリネット）指導について
12	同属楽器アンサンブル（トランペット）指導について
13	同属楽器アンサンブル（トロンボーン）指導について
14	同属楽器アンサンブル（サクソフォン）指導について
15	レポート提出とまとめ

授業計画	
	〔後期〕 幅広い指導活動を体験しレポートにて報告する
1	前期のまとめと各自の報告
2	オーケストラ指導について①木管楽器アンサンブル
3	オーケストラ指導について②金管楽器アンサンブル
4	オーケストラ指導について③管打楽器アンサンブル
5	吹奏楽指導について①木管楽器アンサンブル
6	吹奏楽指導について①金管楽器アンサンブル
7	吹奏楽指導について③管打合奏指導法
8	レポート提出と報告会
9	同属楽器アンサンブル（フルート）特殊管演奏法指導
10	同属楽器アンサンブル（ダブルリード）特殊管演奏法指導
11	同属楽器アンサンブル（クラリネット）特殊管演奏法指導
12	同属楽器アンサンブル（金管楽器）特殊管演奏法指導
13	同属楽器アンサンブル（サクソフォン）特殊管演奏法指導
14	同属楽器アンサンブル（金管バンド）指導法実践
15	レポート提出と報告、意見交換

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2885D0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

弦楽合奏、オーケストラ等で合奏の基礎、各パートの役割等プロの楽団へ行った時の順応性を研く。

2. 授業概要

アンサンブルとしての音程、バランス、奏法等を始め、合奏を通して音楽について考える。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

スコア等をよく読み、練習をして準備をし、授業に出席することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点及び学外での演奏も含む。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ホールでの演奏会を通して色々な角度から音楽の勉強をしてほしい。

授業計画	
	〔前期〕 弦楽合奏を通して合奏の基本をマスターする。
1	ガイダンス 作曲家について学ぶ
2	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント 合奏
3	バルトーク：弦楽のためのティヴェルティメント 前回の復習、合奏
4	バルトーク：ディヴェルティメント パート分奏
5	バルトーク：弦楽のためのディヴェルティメント 合奏
6	ホルスト：セントポール組曲 合奏 ヴィヴァルディ：四季 合奏
7	ヴィヴァルディ：四季 ポーイング確認 分奏
8	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント 合奏
9	ヴィヴァルディ：四季 パート分奏
10	バルトーク：弦楽のためのディヴェルティメント合奏
11	ホルスト：セントポール組曲 合奏 ヴィヴァルディ：四季 合奏
12	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント合奏
13	全体の通し練習
14	リハーサル（本番のように）
15	演奏会

授業計画	
	〔後期〕 基本的な交響曲を通して各作曲家の奏法を学ぶ。
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	ベートーベン交響曲No.1 楽曲分析及びボーイング確認
3	ベートーベン交響曲No.1 合奏
4	ベートーベン交響曲No.1 管打パート分奏・弦楽器分奏
5	ベートーベン交響曲No.1合奏
6	ブラームス交響曲No.1 楽曲分析及びボーイング確認
7	ブラームス交響曲No.1管打パート分奏・弦楽器分奏
8	ブラームス交響曲No.1 合奏
9	ドヴォルザーク交響曲No.8 楽曲分析及びボーイング確認
10	ドヴォルザーク交響曲No.8 合奏
11	ドヴォルザーク交響曲 管打パート分奏・弦楽器分奏
12	ドヴォルザーク交響曲No.8 合奏
13	メンデルスゾーン交響曲No.4楽曲分析及びボーイング確認
14	メンデルスゾーン交響曲No.4 合奏
15	研究発表演奏会

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	IE2885E0	科目コード*	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学部生対象の「打楽器アンサンブル」の授業に出席し、授業担当教員による授業を補佐しながら見学する中で、授業を計画する上で必要な準備、指導法を学ぶ。またそれらを通して、合奏授業を指導する上で必要な、楽曲の表現解釈、楽器の演奏技法、打楽器の求められる表現法などを学ぶ。また、年間複数回実際に授業内での指導にあたり、将来の教員、指導者などのキャリアに活かすことの出来る実践経験を積む。

2. 授業概要

音楽学部の「打楽器アンサンブル」授業に出席し、授業で取り上げる演奏曲の指導方法を研究し、担当教員の補佐をする。また、授業開催に必要な事前準備の補佐をすることにより授業開催に必要なプロセスを学ぶだけでなく、年間で複数回実際に授業内での指導を体験し、その指導法に対する授業担当教員のアドバイスを受ける。後期には「打楽器アンサンブル」の授業の成果発表演奏会に向けての指導の補佐、また、演奏会を開催する上で必要な準備、当日の進行などについても担当教員をサポートしながら体験、学習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、事前研究しておくこと。見学した授業での担当教員の指導法、履修学生のそれに対する対応や反応など気がついたことを授業後に自分であらためて確認することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

合奏指導に取り組む姿勢。事前準備や指導方法の工夫などを考慮し決定。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各授業ごとに担当教員の指示を得て、使用楽譜を確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕
1	授業ガイダンス。前期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	授業見学。アンサンブル授業に同席し、指導担当教員の指導法を見学。
3	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
5	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
6	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	あらためて担当教員による授業、アンサンブル指導を見学し、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて、改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を仕上げに導いていくことを考える。
11	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
12	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
13	打楽器アンサンブルレパートリーについての担当教員による講義。出席し、知識を広げる。
14	打楽器アンサンブルの歴史、世界のプロフェッショナル打楽器アンサンブルについてなどの担当教員による講義。出席し、知識を広げる。
15	前期で取り上げた楽曲の試演会と前期授業の統括。

授業計画	
	〔後期〕
1	授業ガイダンス。後期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	授業見学。アンサンブル授業に同席し、指導担当教員の指導法を見学。前期授業で学んだことを確認しながら履修学生のサポート指導も行う。
3	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
5	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う
6	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	あらためて担当教員による授業、アンサンブル指導を見学し、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて、改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
11	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
12	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
13	「打楽器アンサンブル」授業成果発表演奏会開催にあたり、演奏会当日の円滑なゲネプロ進行などについて、担当教員の指導の下、授業履修学部生が計画することの補佐を行う。合奏指導としても成果を表す目標となる「演奏会」を開催するにあたって、演奏指導以外にも必要な部分について学習する。
14	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
15	終日「打楽器アンサンブル」演奏会に立ち合う。担当教員の補佐をしながら現場に立ちあう中で、実際の演奏会だけではなく、事前の仕込み、ゲネプロ、終演後の片づけなど、合奏演奏会を開催の一連の流れを学ぶ。

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2885G0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

2. 授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、十分に配慮すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究1 / ガイダンス
2	コンサート運営研究2 / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究3 / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究4 / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究5 / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究6 / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究7 / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	e-cafeコンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	e-cafeコンサート準備 / 直前広報展開
10	e-cafeコンサート準備 / タイムテーブル策定等
11	e-cafeコンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画	
1	後期ガイダンス / 役割分担等決定
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	邦楽ミュージカル準備 / 音響・照明打ち合わせ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	石井 喜久子	授業コード	IE2885J0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演 習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

近年学校教育では打楽器指導が非常に重要視され、また生涯学習でも注目されている。音楽を学習するうえで児童が最も親しみやすいものはリズムである。指導者が児童・生徒に音楽の楽しさ・面白さを伝えるため、様々な工夫をしなければならないのは当然のことであり、打楽器はそれに応える楽器と言える。打楽器は、(1)他の楽器と比較し、奏法が容易である、(2)発音に至る過程が視覚的に認知できるため、リズム・テンポの学習に適す、(3)民族打楽器を含めその種類の多様性、豊富さから音色に無限の可能性を有する、などの特徴を持つ。

本科目では、音楽の学習ツールとして打楽器を導入し、これからの音楽教育を考える。

2. 授業概要

- (1) 各種打楽器の奏法研究
- (2) リズムに対する技能的訓練
- (3) 打楽器アンサンブル（打楽器を含む編成のアンサンブル）を軸とした合奏法研究

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業で取り上げられる内容について、図書館などを利用して調べておくこと。
実際に楽器を演奏することもあるので、奏法や楽譜は、必ず予習復習をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）と平常点（出席率含む）（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業の中で紹介

参考文献 網代景介・岡田知之『新版 打楽器辞典』（音楽之友社）

今村征夫『打楽器教則本』（全音楽譜出版社）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で参加すること。

授業計画	
	〔前期〕
1	オリエンテーション 打楽器の定義
2	打楽器の種類 音源による分類
3	打楽器の種類 素材による分類
4	打楽器の種類 奏法による分類
5	拍子リズムについて 拍子・リズムの基礎
6	拍子リズムについて 音符と休符
7	拍子リズムについて 様々なリズムの考察
8	拍子リズムについて ボディーパーカッションを用いて
9	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓 楽器のしくみと奏法
10	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓特殊奏法（ロールetc・・・）
11	代表的な打楽器の基本奏法 ティンパニ
12	代表的な打楽器の基本奏法 大太鼓
13	代表的な打楽器の基本奏法 シンバル
14	代表的な打楽器の基本奏法 小物打楽器
15	代表的な打楽器の基本奏法 擬音打楽器

授業計画	
	[後期]
1	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 膜質打楽器
2	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 鍵盤打楽器
3	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 擬音楽器
4	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 ボディーパーカッション
5	打楽器を中心とする教材開発 基本的なリズムを用いて
6	打楽器を中心とする教材開発 リコーダー・鍵盤ハーモニカとのアンサンブルや合奏
7	打楽器を中心とする教材開発 和太鼓
8	世界の打楽器 中南米
9	世界の打楽器 アフリカ
10	初等教育における打楽器指導
11	中等教育における打楽器指導
12	打楽器アンサンブル作品についてのディスカッション
13	発表
14	振り返り
15	まとめ 生涯学習と打楽器

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2886C0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

2. 授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に1回担当教員へ）

外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う。

4. 成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サクソオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画	
	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること
1	合奏指導法とは ガイダンス（後期は前期の報告とまとめ）
2	オーケストラ指導について①木管楽器
3	オーケストラ指導について②金管楽器
4	オーケストラ指導について③管打楽器
5	吹奏楽指導について①木管楽器の構造
6	吹奏楽指導について②金管楽器の構造
7	吹奏楽指導について③管打合奏
8	レポート提出と報告会
9	同属楽器アンサンブル（フルート）指導について
10	同属楽器アンサンブル（ダブルリード）指導について
11	同属楽器アンサンブル（クラリネット）指導について
12	同属楽器アンサンブル（トランペット）指導について
13	同属楽器アンサンブル（トロンボーン）指導について
14	同属楽器アンサンブル（サクソフォン）指導について
15	レポート提出とまとめ

授業計画	
	[後期]
1	前期のまとめと後期の計画
2	オーケストラ指導について①木管楽器アンサンブル
3	オーケストラ指導について②金管楽器アンサンブル
4	オーケストラ指導について③管打楽器アンサンブル
5	吹奏楽指導について①木管楽器アンサンブル
6	オーケストラ指導について②金管楽器アンサンブル
7	吹奏楽指導について③管打楽器アンサンブル
8	レポート提出と報告会
9	同属楽器アンサンブル（フルート）特種管演奏法指導
10	同属楽器アンサンブル（ダブルリード）特種管演奏法指導
11	同属楽器アンサンブル（クラリネット）特種管演奏法指導
12	同属楽器アンサンブル（金管楽器）特種管演奏法指導
13	同属楽器アンサンブル（サクソフォン）特種管演奏法指導
14	同属楽器アンサンブル（金管バンド）指導法と実践
15	レポート提出と報告

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2886D0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

弦楽合奏、オーケストラ等で合奏の基礎、各パートの役割等プロの楽団へ行った時の順応性を研く。

2. 授業概要

アンサンブルとしての音程、バランス、奏法等を始め、合奏を通して音楽について考える。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

スコア等をよく読み、練習をして準備をし、授業に出席することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点及び学外での演奏も含む。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ホールでの演奏会を通して色々な角度から音楽の勉強をしてほしい。

授業計画	
	〔前期〕 弦楽合奏を通して合奏の基本をマスターする。
1	ガイダンス 作曲家について学ぶ
2	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント 合奏
3	バルトーク：弦楽のためのティヴェルティメント 前回の復習、合奏
4	バルトーク：ディヴェルティメント パート分奏
5	バルトーク：弦楽のためのディヴェルティメント 合奏
6	ホルスト：セントポール組曲 合奏 ヴィヴァルディ：四季 合奏
7	ヴィヴァルディ：四季 ポーイング確認 分奏
8	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント 合奏
9	ヴィヴァルディ：四季 パート分奏
10	バルトーク：弦楽のためのディヴェルティメント合奏
11	ホルスト：セントポール組曲 合奏 ヴィヴァルディ：四季 合奏
12	バルトーク：弦楽のためのティヴィルティメント合奏
13	全体の通し練習
14	リハーサル（本番のように）
15	演奏会

授業計画	
	〔後期〕 基本的な交響曲を通して各作曲家の奏法を学ぶ。
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	ベートーベン交響曲No.1 楽曲分析及びボーイング確認
3	ベートーベン交響曲No.1 合奏
4	ベートーベン交響曲No.1 管打パート分奏・弦楽器分奏
5	ベートーベン交響曲No.1合奏
6	ブラームス交響曲NO.1 楽曲分析及びボーイング確認
7	ブラームス交響曲No.1管打パート分奏・弦楽器分奏
8	ブラームス交響曲No.1 合奏
9	ドヴォルザーク交響曲No.8 楽曲分析及びボーイング確認
10	ドヴォルザーク交響曲No.8 合奏
11	ドヴォルザーク交響曲 管打パート分奏・弦楽器分奏
12	ドヴォルザーク交響曲No.8 合奏
13	メンデルスゾーン交響曲No.4楽曲分析及びボーイング確認
14	メンデルスゾーン交響曲No.4 合奏
15	研究発表演奏会

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2886E0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学部生対象の「打楽器アンサンブル」の授業に出席し、授業担当教員による授業を補佐しながら見学する中で、授業を計画する上で必要な準備、指導法を学ぶ。またそれらを通して、合奏授業を指導する上で必要な、楽曲の表現解釈、楽器の演奏技法、打楽器の求められる表現法などを学ぶ。また、年間複数回実際に授業内での指導にあたり、将来の教員、指導者などのキャリアに活かすことの出来る実践経験を積む。

2. 授業概要

音楽学部の「打楽器アンサンブル」授業に出席し、授業で取り上げる演奏曲の指導方法を研究し、担当教員の補佐をする。また、授業開催に必要な事前準備の補佐をすることにより授業開催に必要なプロセスを学ぶだけでなく、年間で複数回実際に授業内での指導を体験し、その指導法に対する授業担当教員のアドバイスを受ける。後期には「打楽器アンサンブル」の授業の成果発表演奏会に向けての指導の補佐、また、演奏会を開催する上で必要な準備、当日の進行などについても担当教員をサポートしながら体験、学習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、事前研究しておくこと。見学した授業での担当教員の指導法、履修学生のそれに対する対応や反応など気がついたことを授業後に自分であらためて確認することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

合奏指導に取り組む姿勢。事前準備や指導方法の工夫などを考慮し決定。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各授業ごとに担当教員の指示を得て、使用楽譜を確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕
1	授業ガイダンス。前期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	授業見学。アンサンブル授業に同席し、指導担当教員の指導法を見学。
3	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
5	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
6	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	あらためて担当教員による授業、アンサンブル指導を見学し、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて、改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を仕上げに導いていくことを考える。
11	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
12	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
13	打楽器アンサンブルレパートリーについての担当教員による講義。出席し、知識を広げる。
14	打楽器アンサンブルの歴史、世界のプロフェッショナル打楽器アンサンブルについてなどの担当教員による講義。出席し、知識を広げる。
15	前期で取り上げた楽曲の試演会と前期授業の統括。

授業計画	
	〔後期〕
1	授業ガイダンス。後期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	授業見学。アンサンブル授業に同席し、指導担当教員の指導法を見学。前期授業で学んだことを確認しながら履修学生のサポート指導も行う。
3	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	アンサンブル授業を見学し、前回の授業から履修学生の演奏、楽曲への理解などに成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
5	ここまで見学して感じた履修学生の成長その他をふまえ、授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う
6	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	あらためて担当教員による授業、アンサンブル指導を見学し、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて、改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
11	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
12	担当教員の行う指導をアシストする。成果発表演奏会に向けての指導という気持ちをより強く持ち、担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う、また、逆に担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。履修学生によるアンサンブル演奏を演奏会に向けて仕上げに導いていくことを考える。
13	「打楽器アンサンブル」授業成果発表演奏会開催にあたり、演奏会当日の円滑なゲネプロ進行などについて、担当教員の指導の下、授業履修学部生が計画することの補佐を行う。合奏指導としても成果を表す目標となる「演奏会」を開催するにあたって、演奏指導以外にも必要な部分について学習する。
14	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
15	終日「打楽器アンサンブル」演奏会に立ち合う。担当教員の補佐をしながら現場に立ちあう中で、実際の演奏会だけではなく、事前の仕込み、ゲネプロ、終演後の片づけなど、合奏演奏会を開催の一連の流れを学ぶ。

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2886G0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

2. 授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、十分に配慮すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究1 / ガイダンス
2	コンサート運営研究2 / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究3 / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究4 / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究5 / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究6 / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究7 / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	e-cafeコンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	e-cafeコンサート準備 / 直前広報展開
10	e-cafeコンサート準備 / タイムテーブル作成等
11	e-cafeコンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画	
1	後期ガイダンス / 役割分担策定等
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	邦楽ミュージカル準備 / 音響・照明打ち合わせ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2886H0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	小林 徹						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

アンサンブルの指導的立場に立って演奏することができ、同時に指揮をして合奏指導ができるようになること。

2. 授業概要

ギター合奏授業の中心となって演奏し、講師指導により指揮を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われている楽曲の譜読み、分析

4. 成績評価の方法及び基準

学部授業に対する貢献度と演奏会での評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス ギター重奏、合奏について
2	ギター重奏、合奏のための基礎練習
3	ギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ギターアンサンブルによる バロック時代の楽曲紹介
5	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習1
6	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習2
7	古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習1
9	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習2
10	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習1
12	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習2
13	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題

授業計画	
1	ガイダンス 後期のギターアンサンブルの課題と目標
2	ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介
3	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習1
4	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習2
5	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習3
6	近・現代のギターアンサンブル曲の紹介
7	近・現代のギターアンサンブル曲の練習1
8	近・現代のギターアンサンブル曲の練習2
9	近・現代のギターアンサンブル曲の練習3
10	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習1
12	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習2
13	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	石井 喜久子	授業コード	IE2886J0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演 習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

近年学校教育では打楽器指導が非常に重要視され、また生涯学習でも注目されている。音楽を学習するうえで児童が最も親しみやすいものはリズムである。指導者が児童・生徒に音楽の楽しさ・面白さを伝えるため、様々な工夫をしなければならないのは当然のことであり、打楽器はそれに応える楽器と言える。打楽器は、(1)他の楽器と比較し、奏法が容易である、(2)発音に至る過程が視覚的に認知できるため、リズム・テンポの学習に適す、(3)民族打楽器を含めその種類の多様性、豊富さから音色に無限の可能性を有する、などの特徴を持つ。

本科目では、音楽の学習ツールとして打楽器を導入し、これからの音楽教育を考える。

2. 授業概要

- (1) 各種打楽器の奏法研究
- (2) リズムに対する技能的訓練
- (3) 打楽器アンサンブル（打楽器を含む編成のアンサンブル）を軸とした合奏法研究

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業で取り上げられる内容について、図書館などを利用して調べておくこと。
実際に楽器を演奏することもあるので、奏法や楽譜は、必ず予習復習をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）と平常点（出席率含む）（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業の中で紹介

参考文献 網代景介・岡田知之『新版 打楽器辞典』（音楽之友社）

今村征夫『打楽器教則本』（全音楽譜出版社）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で参加すること。

授業計画	
	〔前期〕
1	オリエンテーション 打楽器の定義
2	打楽器の種類 音源による分類
3	打楽器の種類 素材による分類
4	打楽器の種類 奏法による分類
5	拍子リズムについて 拍子・リズムの基礎
6	拍子リズムについて 音符と休符
7	拍子リズムについて 様々なリズムの考察
8	拍子リズムについて ボディーパーカッションを用いて
9	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓 楽器のしくみと奏法
10	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓特殊奏法（ロールetc・・・）
11	代表的な打楽器の基本奏法 ティンパニ
12	代表的な打楽器の基本奏法 大太鼓
13	代表的な打楽器の基本奏法 シンバル
14	代表的な打楽器の基本奏法 小物打楽器
15	代表的な打楽器の基本奏法 擬音打楽器

授業計画	
	[後期]
1	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 膜質打楽器
2	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 鍵盤打楽器
3	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 擬音楽器
4	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 ボディーパーカッション
5	打楽器を中心とする教材開発 基本的なリズムを用いて
6	打楽器を中心とする教材開発 リコーダー・鍵盤ハーモニカとのアンサンブルや合奏
7	打楽器を中心とする教材開発 和太鼓
8	世界の打楽器 中南米
9	世界の打楽器 アフリカ
10	初等教育における打楽器指導
11	中等教育における打楽器指導
12	打楽器アンサンブル作品についてのディスカッション
13	発表
14	振り返り
15	まとめ 生涯学習と打楽器

科目名	オルガン研究 〔火3〕						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE289000	科目コード	IE2890	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同じ鍵盤楽器のグループの中であって、ピアノは弦をハンマーで打つ言わば打楽器、チェンバロは弦をはじく撥弦楽器、そしてオルガンは唯一笛を鳴らす管楽器です。同じく鍵盤を指で操る楽器でありながら、その発音原理は異種なもので、当然タッチや奏法も大きく異なります。

オルガンの音の特徴は「減衰しない」ということ。そのため1つ1つの音の行方を意識し、いかに音を終わらせるかが鍵になります。オルガンに触れることにより、指先の感覚の大切さを再認識することができるでしょう。

本講座では、オルガンに触れ、ピアノとは違う鍵盤へのアプローチを経験することによって、ピアノのタッチを見直すことを目標とします。オルガンは、なかなか演奏することができない楽器。是非学生時代に、オルガンと出会って下さい。

2. 授業概要

まずは「管楽器の集合体」「指で笛を鳴らす」楽器、オルガンを目と耳と手と足、全身で体感する。そして、J.S. バッハをはじめバロック時代の作曲家の楽曲を題材に、タッチやアーティキュレーションを学ぶ。また、C. フランクなどのロマン派の作曲家の楽曲を題材に、ダンパーペダルに頼らないレガート奏法を体験する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い、及びレポート）（評価の50%）

授業時の演習姿勢と内容（（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

課題の楽譜や資料は、授業内で配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・出席率が2分の1以下の場合、単位取得資格を失います。
- ・基本的に演習形式の授業のため、各自練習して授業に臨むこと。

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1（タッチ）
3	奏法の基礎2（レジストレーション）
4	奏法の基礎3（アーティキレーション）
5	奏法の基礎4（レガート奏法）
6	バロック時代の楽曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
7	バロック時代の楽曲(2)形式、和声を中心に
8	バロック時代の楽曲(3)奏法を中心に
9	バロック時代の楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
10	バロック時代の楽曲(5)仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(1)足鍵盤の奏法
12	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(2)形式、和声を中心に
13	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(3)奏法を中心に
14	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
15	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	[後期]
1	J. S. バッハの楽曲(1)時代背景、様式を中心に
2	J. S. バッハの楽曲(2)形式、和声を中心に
3	J. S. バッハの楽曲(3)奏法を中心に
4	J. S. バッハの楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
5	J. S. バッハの楽曲(5)表現の掘り下げ
6	J. S. バッハの楽曲(6)仕上げとまとめ
7	ロマン派の楽曲(1)時代背景、様式を中心に
8	ロマン派の楽曲(2)形式、和声を中心に
9	ロマン派の楽曲(3)奏法を中心に
10	ロマン派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
11	ロマン派の楽曲(5)仕上げとまとめ
12	課題曲を学ぶ(1)形式、和声、奏法を中心に
13	課題曲を学ぶ(2)レジストレーション、表現法を中心に
14	課題曲を学ぶ(3)表現の掘り下げ
15	演奏会形式での発表、まとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	作品研究法 〔月4〕Aクラス						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE3070A0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文執筆が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、具体的な論文の執筆に必要な知識や技術を身に付け、副論文の執筆に備えます。

2. 授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術や方法を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）、レポート執筆など、講義だけでなく、様々な課題による演習を行います。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習、復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、これを通して学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	〔前期〕 論文執筆の基礎的な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示：小論文
2	音楽学について～1
3	音楽学について～2
4	音楽学について～3
5	小論文の返却・添削など
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録の読み方～1
10	欧文の作品目録の読み方～2 課題の提示
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～1、課題の添削
13	学術論文を読む～2
14	学術論文を読む～3
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	〔後期〕 各自研究テーマを決め、論文を執筆します。
1	夏休みの課題の添削
2	後期課題について、研究テーマの選択
3	論文執筆のプロセス、課題の提示
4	2年生の中間発表を聴講
5	資料集めと文献表の作成
6	資料集めと文献表の作成、課題の提示
7	資料の分類と整理法、論文構成法について
8	引用・注釈、情報源の示し方
9	音楽学関連の講義、または共同・個人研究
10	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
11	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
12	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
13	後期課題の発表。
14	後期課題の発表。
15	後期課題の発表

科目名	作品研究法 〔金2〕Bクラス						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE3070B0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文の提出が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、論文の執筆に必要な知識や技術を身に付け、副論文の執筆に備えます。

2. 授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献資料の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）など。また、後期には実際に論文を執筆してもらいます。以上のように講義だけでなく、様々な課題による演習を行います。また、楽曲分析の授業と連携した課題も予定しています。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、こうして学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	〔前期〕論文執筆の基礎得 た 機な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示（小論文）
2	音楽学について～1
3	音楽学について～2
4	音楽学について～3
5	課題の添削（小論文）
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録の読み方～1
10	欧文の作品目録の読み方～2、課題の提示
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～1、課題の添削
13	学術論文を読む～2
14	学術論文を読む～3
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	〔後期〕 各自の演習と発表を中心に授業を進めます。
1	夏休みの課題の添削
2	後期課題について、研究テーマの選択
3	論文執筆のプロセス、課題の提示
4	2年生の副論文中間発表を聴講
5	資料集めと文献表の作成
6	資料集めと文献表の作成～2、課題の提示
7	情報の分類と整理法、論文構成法について
8	引用・注釈、情報源の示し方
9	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
10	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
11	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
12	音楽学関連の講義、または個人・共同研究
13	後期課題の発表と添削。
14	後期課題の発表と添削。
15	後期課題の発表と添削。授業のまとめ。

科目名	楽曲分析法 [火1]Aクラス						
代表教員	山田 武彦	授業コード	IE3080A0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員	青島 広志						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様式、歴史的背景、楽式、曲の構成要素を正しく捉えた上で楽曲分析が行えるようになる。音楽で使用される用語を用いて楽曲について概説できるようになる。

2. 授業概要

楽曲分析の方法、楽式、楽曲の読み捉え方などを解説し、それらについて各自が演習を行う（①読む・聞きとる事と②書く・作る事を行う）。古今の名曲に触れる、また未知・既知の別を問わず楽曲の分析を行っていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う楽曲をスコアと照らし合わせながら聞く事。また授業内での演習や課題を実施のこと。
※なお当科目の授業内容について「作品研究法」（担当：那須田務先生）授業との連携により楽曲分析考察結果の文章化等で指導を受けることができる。大いに活用されたい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、レポート（2回）の各々50%ずつ

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜は各自用意する事。また五線紙持参の事。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業進行の課程で講義内容の順序の入れ替えや変更が起こることがある。

授業計画	
	〔前期〕 同一の作品について数回の授業でとりあげる場合、授業の進行状況によって各回の内容が変化する場合があります。
1	楽曲分析、楽式、曲の構成要素などの概説
2	一部形式、二部形式、三部形式の構造と演習
3	モーツァルト フィガロの結婚（その1）総論、序曲
4	変奏曲の構造と演習
5	モーツァルト ピアノソナタKV300i (331) 第1楽章
6	モーツァルト フィガロの結婚（その2）重唱とアリア
7	モーツァルト フィガロの結婚（その3）レチタティーヴォ
8	シューベルト 野ばら、鱒、菩提樹、魔王（その1）考察の曲順についてはその都度決定する
9	シューベルト 野ばら、鱒、菩提樹、魔王（その2）
10	ソナタ形式の構造と演習
11	ベートーヴェン ピアノソナタOp. 13<悲愴>
12	ベートーヴェン 交響曲第5番<運命>（その1）形式と転調過程
13	ベートーヴェン 交響曲第5番<運命>（その2）動機の敷衍、管弦楽法など
14	ロンドの構造と演習
15	モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク第4楽章

授業計画	
	〔後期〕11回～14回の演習についてはその都度初見で楽譜を見ての考察となるため曲目は明記しない。これまで学習した各形式の作品について様々な時代、様式の作品から取り上げるものとする。（例として、バッハ：フランス組曲、モーツァルト：ヴァイオリンソナタ、ブラームス：変奏曲、など）
1	ベルリオーズ 幻想交響曲（その1）第1楽章
2	ベルリオーズ 幻想交響曲（その2）前回のつづき
3	スメタナ「わが祖国」よりモルダウ
4	カノン・フーガの構造と演習
5	バッハ「インヴェンション」「平均律1巻」より
6	ハイドン ネルソン・ミサ（その1）前半
7	ハイドン ネルソン・ミサ（その2）後半
8	バルトーク ミクロコスモスより
9	ムソルグスキー 展覧会の絵（その1）前半
10	ムソルグスキー 展覧会の絵（その2）後半
11	楽曲分析の演習1
12	楽曲分析の演習2
13	楽曲分析の演習3
14	楽曲分析の演習4
15	総括

科目名	楽曲分析法　〔水4〕Bクラス						
代表教員	照屋　正樹	授業コード*	IE3080B0	科目コード*	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MT・CO除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

楽曲への深い理解と質の高い解釈のために、音楽を志す者にとって楽曲分析は欠かせない。この講座では様々な楽曲を例に挙げ、時代、様式等の違いによる分析法について取り上げ、楽曲分析能力の向上を目標とする。

2. 授業概要

主題操作を極限まで追求した「ソナタ形式」、対位法技法の最も完成された形式「フーガ」、そして独自の発展を遂げたフランス近代音楽の諸作品を分析し、その方法論を詳細に探求して行く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業計画に示した楽曲を予め聴取し、各自簡単に分析しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、提出物等による平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しないが、授業の際、分析に使用する楽譜を各自用意すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修することが望ましい。

授業計画	
	〔前期〕
1	分析法概説
2	形式一覧
3	ソナタとソナタ形式について
4	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その1 第1番Op. 2-1第1楽章
5	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その2 第6番Op. 10-2第1楽章
6	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その3 (循環形式) 第8番Op. 13「悲愴」第1楽章
7	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その4 (循環形式) 同上曲第2, 3楽章
8	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その5 第17番Op. 31-2「テンペスト」第1楽章
9	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その6 第21番Op. 53「ワルトシュタイン」第1楽章
10	ベートーヴェン「ピアノソナタ」の研究-その7 第27番Op. 90第1楽章
11	ロマン派の作曲家による循環形式-その1 フランク「ヴァイオリンソナタ」第1楽章
12	ロマン派の作曲家による循環形式-その2 同上曲第2楽章 (第1回)
13	ロマン派の作曲家による循環形式-その3 同上曲第2楽章 (第2回)
14	ロマン派の作曲家による循環形式-その4 同上曲第3楽章
15	ロマン派の作曲家による循環形式-その5 同上曲第4楽章

授業計画	
	[後期]
1	対位法用語の解説、及びバッハ「音楽の捧げ物」より各種カノン
2	バッハ「インヴェンション」の研究
3	バッハ「シンフォニア」の研究
4	フーガ概説
5	バッハ「平均律クラヴィア曲集」よりフーガの研究-その1
6	バッハ「平均律クラヴィア曲集」よりフーガの研究-その2
7	バッハ以降の作曲家による対位法的楽曲の研究 (モーツァルト「弦楽四重奏曲K.387」より終楽章、ベートーヴェン「弦楽四重奏曲第14番Op.131」より冒頭のフーガ)
8	フォーレにおける属七の和音を含む特殊な和音連結について
9	近代フランス音楽の作曲技法について
10	ラヴェル「ソナチネ」第1楽章（第1回）
11	ラヴェル「ソナチネ」第1楽章（第2回）、及び第2楽章
12	ラヴェル「ソナチネ」第3楽章
13	ドビュッシー「前奏曲集第1巻」より「沈める寺」
14	ドビュッシー「前奏曲集第1巻」より「デルフの舞い姫」、「帆」
15	ドビュッシー「前奏曲集第1巻」より「雪の上の足跡」、および総括

科目名	専門器楽実習Ⅰ（PF）						
代表教員	吉武 雅子	授業コード*	X1L1110A0	科目コード*	IL1110d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブールの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のポレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探究する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探究する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアノズムを研究し、適切な音質と音色を探究し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探究する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探究し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探究実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習 I (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード*	X1L1110B0	科目コード*	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探索する。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探索する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探索する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探索する。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探索する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探索する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探索する。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら１人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探究する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からパルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探究する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアノスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探究実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアノスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探究する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探究する。
14	研究演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習Ⅰ（WI）						
代表教員	渡部 亨	授業コード*	X1L1110C0	科目コード*	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近代作品研究ブーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅰ（SI）						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1110D0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（１） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	３度、６度、８度、１０度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。
3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究。
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。
7	バロック奏法研究。テレマン１２のファンタジー
8	バロック奏法研究。バッハ無伴奏ソナタNo1
9	バロック奏法研究。バッハ無伴奏パルティータNo. 3
10	バッハ奏法研究。無伴奏ソナタNo. 1
11	バッハ奏法研究。パルティータNo. 3
12	バッハ無伴奏奏法研究。ソナタNo. 2
13	バッハ無伴奏研究。右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。フィンガリングの分析。
15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト 協奏曲No. 3 の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No. 3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No. 4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No. 4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No. 5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No. 5. ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo. 1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo. 1 ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo. 3 楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo 3 ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo. 5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo. 5 ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	専門器楽実習Ⅰ（PI）						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	X1L1110E0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識、考察する。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢（50%）、それによる成果のレベル（50%）を考慮し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	〔前期〕 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通じた学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅰ（E0）						
代表教員	赤塚 博美	授業コード*	X1L1110F0	科目コード*	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1) アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2) アレンジ曲の選曲と分析
3	専門器楽実習(3) 曲の時代背景、スタイル研究 読譜の確認
4	専門器楽実習(4) 曲の時代背景、スタイル研究 表現の工夫
5	専門器楽実習(5) 曲のハーモニー分析 和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6) 曲のハーモニー分析 曲全体の流れをつかむ。
7	専門器楽実習(7) 曲のアレンジ実習 スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8) 曲のアレンジ実習 スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9) 曲のアレンジ実習 確認
10	専門器楽実習(10) レジストレーション研究 曲に合った音色を選択
11	専門器楽実習(11) レジストレーション研究 音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14) 1曲を通しての音楽のまとめ方
15	まとめの演奏

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される研究演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究 時代背景、形式から
3	専門器楽実習(3) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5) 楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6) 楽曲分析と演奏法研究 表現の工夫
7	専門器楽実習(7) アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8) アーティキュレーション並びにフレーズ研究 フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9) 演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10) 演応解釈と表現テクニックについての研究 表現の掘り下げ
11	専門器楽実習(11) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 確認
12	専門器楽実習(12) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 表現並びにメカニクな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13) それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14) 曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏
15	専門器楽実習(15) 演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅰ（WA）						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	X1L1110G0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

- ・ 研究への姿勢＝25%
- ・ 実践への取り組み＝25%
- ・ 演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「専門器楽実習Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

科目名	専門器楽実習Ⅱ（PF）						
代表教員	吉武 雅子	授業コード*	XIL1115A0	科目コード*	IL1115d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。」

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ 二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロが持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン＝サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	専門器楽実習Ⅱ（WI）						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL1115C0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践
5	専門器楽実習（5）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（6）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（7）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（8）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（9）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（10）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（13）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（15）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ（SI）						
代表教員	水野 佐知香	授業コード*	XIL1115D0	科目コード*	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No. 24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No. 24ボーイングとフィンガリング研究
4	パガニーニ奇想曲No. 9、11、16 奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo 2 楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo 2 ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニクの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニクについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニク分析

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo. 7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo. 7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo. 9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo. 9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2. 3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2. 3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲 1楽章 楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング
11	ブラームス協奏曲2. 3楽章 楽曲分析
12	ブラームス協奏曲2. 3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	ブラームス ソナタ 楽曲分析
14	ブラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	ブラームス ソナタ 表現研究

科目名	専門器楽実習Ⅱ（GT）						
代表教員	原 善伸	授業コード*	X1L1115D1	科目コード*	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

プロギタリストとしてステージに立ち、リサイタルを行うに足る実力をつけることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員の個人レッスンをメインとし、年間数回の客員教授や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎日の基礎練習、現在研究中の楽曲演奏、各自レパートリーの維持

4. 成績評価の方法及び基準

専門家としての技量やレパートリーの完成度を勘案し、終了演奏会における演奏内容を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究対象となる楽曲の信頼の置ける出版譜及び原典版
演奏家としての技量を養うための各教本やエチュード

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの演奏家として世に出て行こうとする者。
またクラシックギターの教育者として高度な知識と指導法を身につけることを目指すもの。

授業計画	
1	ガイダンス
2	技術練習の方法と教材
3	エチュードの歴史的考察
4	クラシックギターの現代奏法の研究
5	ブジョールの技術教本の考察と実践
6	カルレパロの技術教本の考察と実践
7	パンピング・ナイロンの考察と実践
8	クラシックギターの必須レパートリー研究
9	J. S. バッハのギターへの編曲作品研究
10	フーガイ短調BWV1000の分析と演奏
11	プレリュード、フーガ、アレグロBWV998の分析と演奏
12	リュート組曲第1番BWV996の分析と演奏
13	リュート組曲第3番BWV995の分析と演奏
14	シャコンヌBWV1004～の分析と演奏
15	前期総括と発表演奏

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	近現代のクラシックギター必修レパートリー考察
3	H. ヴィラ＝ロボスのギター作品の研究
4	「5つの前奏曲」の分析と演奏
5	「12の練習曲」の分析と演奏
6	「ギターコンチェルト」の分析と演奏
7	J. トゥリーナのギター作品研究
8	「ソナタ」の作品分析と演奏
9	「セビリア幻想曲」の作品分析と演奏
10	武満徹のギター作品研究
11	「フォリオス」の作品分析と演奏
12	「すべては薄明の中に」の作品分析と演奏
13	「エキノキス」の作品分析と演奏
14	「12の地球の歌」の作品分析と演奏
15	終了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ（PI）						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	X1L1115E0	科目コード*	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識、考察する。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢（50%）、それによる成果のレベル（50%）を考慮し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	〔前期〕 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどのような発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通じた学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅱ（WA）						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード*	XIL1115G0	科目コード*	IL1115d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を更に高度に磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

- ・ 研究への姿勢＝25%
- ・ 実践への取り組み＝25%
- ・ 演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「器楽演奏実習Ⅰ」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し□和のいろは」コンサート曲レッスン4
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究 I (PF)						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	X1L1170A0	科目コード	IL1170d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のポレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探究する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探究する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアノニズムを研究し、適切な音質と音色を探究し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探究する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探究し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探究実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究 I (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	XIL1170B0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探る。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探究する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探究する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探る。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探究する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探究する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探る。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら１人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探究する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からパルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探究する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアノスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探求実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアノスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探求する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探る。
14	研究演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究 I (WI)						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL1170C0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近代作品研究ブーランケ
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究 I（SI）						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1170D0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（1） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	3度、6度、8度、10度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。
3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究。
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。
7	バロック奏法研究。テレマン12のファンタジー
8	バロック奏法研究。バッハ無伴奏ソナタNo1
9	バロック奏法研究。バッハ無伴奏パルティータNo.3
10	バッハ奏法研究。無伴奏ソナタNo.1
11	バッハ奏法研究。パルティータNo.3
12	バッハ無伴奏奏法研究。ソナタNo.2
13	バッハ無伴奏研究。右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。フィンガリングの分析。
15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト 協奏曲No. 3 の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No. 3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No. 4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No. 4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No. 5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No. 5. ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo. 1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo. 1 ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo. 3 楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo 3 ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo. 5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo. 5 ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	演奏法研究Ⅰ（PI）						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	XIL1170E0	科目コード*	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の研究演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう考えて年間の授業を進めていく。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	〔前期〕 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の研究演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっていくか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。研究演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。1曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	研究演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究 I (E0)						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	X1L1170F0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1) レパートリー選曲
2	演奏法研究(2) バロック演奏法研究 様式を中心に
3	演奏法研究(3) バロック演奏法研究 形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4) パイプオルガン演奏法研究と応用 フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5) パイプオルガン演奏法研究と応用 ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6) アーティキュレーション研究 レガート奏法を学ぶ。
7	演奏法研究(7) アーティキュレーション研究 スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8) レジストレーション研究 音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9) レジストレーション研究、エディット研究 木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10) レジストレーション研究、エディット研究 金管楽器の音色を作る。
11	演奏法研究(11) レジストレーション研究、エディット研究 スtringsの音色を作る。
12	演奏法研究(12) フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13) フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14) 曲のまとめと解釈について 表現の工夫
15	演奏法研究(15) 曲のまとめと解釈について 演奏の確認

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。研究演奏会に向けての指導も積極的に行われる。
1	演奏法研究(1) ロマン派の音楽について 選曲
2	演奏法研究(2) ロマン派の音楽のレジストレーション研究 アナリーゼから音色を工夫する。
3	演奏法研究(3) ロマン派の音楽とレジストレーション研究 奏法を中心に
4	演奏法研究(4) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6) 近現代のレパートリー選曲
7	演奏法研究(7) 近現代作品のスタイル研究 様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8) 近現代作品スタイル研究 形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫
11	演奏法研究(11) 近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12) 研究演奏会用楽曲のアナリーゼと解釈について
13	演奏法研究(13) 研究演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14) 研究演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究
15	演奏法研究(15) 研究演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ（WA）						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	XIL1170G0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅱ（PF）						
代表教員	吉武 雅子	授業コード*	XIL1175A0	科目コード*	IL1175d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。」

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ 二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロが持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン＝サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	演奏法研究Ⅱ（WI）						
代表教員	渡部 亨	授業コード*	XIL1175C0	科目コード*	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践
5	専門器楽実習（5）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（6）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（7）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（8）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（9）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（10）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（13）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（15）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ（SI）						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1175D0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No. 24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No. 24ボーイングとフィンガリング研究
4	パガニーニ奇想曲No. 9、11、16 奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo 2 楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo 2 ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニクの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニクについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニク分析

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo. 7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo. 7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo. 9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo. 9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2. 3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2. 3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲 1楽章 楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング
11	ブラームス協奏曲2. 3楽章 楽曲分析
12	ブラームス協奏曲2. 3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	ブラームス ソナタ 楽曲分析
14	ブラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	ブラームス ソナタ 表現研究

科目名	演奏法研究Ⅱ（GT）						
代表教員	原 善伸	授業コード	X1L1175D1	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

クラシックギターの主要なレパートリーの演奏法を研究する。
基本技術として重要なスケール、アルペジオ、トレモロなどのテクニックを、より高度な水準に到達させることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員（原善伸）の個人レッスンと、客員教授（鈴木大介、大萩康司）や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

研究中の楽曲やテーマを学内図書館などを利用し、様々な角度から研究する。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会において、どのように研究の成果が現れたかを検証、採点する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

25の練習曲集Op. 60 (M. カルカッシ) セゴヴィア編20の練習曲 (F. ソル)
12の練習曲 (H. ヴィラ=ロボス) 12の地球の歌 (武満徹)

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの奏法がどのように発展、進歩してきたかを、レパートリーの中に見出し、実践しようとする意欲を持った者。

授業計画	
1	ガイダンス：年間の授業計画について
2	クラシックギター演奏法の歴史概観
3	中世の撥弦楽器の使用例と奏法
4	スペイン16世紀、ヴィウエラの奏法
5	イギリス・エリザベス朝リュートの奏法
6	イタリア16世紀のリュートとギター音楽の奏法研究
7	ルネッサンス期ドイツのリュート音楽研究
8	フランドルやフランスにおけるルネッサンスリュートやギター奏法研究
9	バロックリュートの奏法とレパートリー研究
10	フランスバロックのリュート音楽研究
11	ドイツバロック、特にS. L. ヴァイスのリュート音楽研究
12	J. S. バッハのリュート音楽研究
13	J. S. バッハのクラシックギターへの編曲作品研究
14	A. セゴヴィアのバッハ編曲作品研究前期のまとめ
15	前期総括発表

授業計画	
1	後期ガイダンス：後期の授業計画と終了演奏会準備計画
2	ルネッサンスギターとバロックギターについての考察
3	ルネッサンスギターの作品と奏法研究（A. ムダーラ、L. ナルバエス、P. アテニアンなど）
4	ガスバル・サンスのバロックギター作品の奏法研究
5	ロベール・ド・ヴィゼーのバロックギター作品の奏法研究
6	その他のバロックギター作曲家の作品研究（ムルシア、ロンカリ、ロジーなど）
7	19世紀ギターの構造、奏法と作品、作曲家についての考察
8	F. カルッリの作品と奏法研究
9	F. ソルの作品と奏法研究
10	M. ジュリアーニの作品と奏法研究
11	ロマン派のギター作品と作曲家、奏法、そして楽器の変容
12	J. K. メルツとN. コストの作品と奏法研究
13	A. トーレスの登場と現代クラシックギター、構造と受容の歴史
14	A. セゴヴィアによる現代クラシックギターの奏法革命
15	修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ（PI）						
代表教員	神谷 百子	授業コード*	XIL1175E0	科目コード*	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の修了演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう考えて年間の授業を進めていく。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	〔前期〕 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の修了演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっていくか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。修了演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。1曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	修了演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅱ（WA）						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード*	XIL1175G0	科目コード*	IL1175d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	声楽実習Ⅰ（V0）						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	XIL131000	科目コード*	IL1310d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人のレベルに合わせたレッスンを行う。
プロフェッショナルな担当教員による各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2. 授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクッションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクッション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

試験 100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生のレベル、課題に合わせ、レッスン担当教員と話し合いの中で決める。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。
また、担当教員と研究課題をしっかりと決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	〔前期〕
1	レッスンガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
3	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
4	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
5	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
6	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
7	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
8	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
9	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
10	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
11	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
12	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
13	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
14	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	研究演奏会（修了演奏会）に向けて選曲準備をはじめる
2	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
3	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
4	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
5	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
6	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
7	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
8	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
9	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
10	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
11	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
12	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
13	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
14	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会・修了演奏会への仕上げ）

科目名	声楽実習Ⅱ（V0）						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	XIL131500	科目コード*	IL1315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドバイスを受け、自分の目標を達成させる。

2. 授業概要

年間30回の個人レッスンによる。
より高度な歌唱法と音楽表現への理解を深め、集大成としての修了演奏会に挑む

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクシオン、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の研究テーマに合わせ、レッスン担当教員と話し合い決定する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは1回1回の積み重ねにより成り立っているため、研究課題をしっかりと決め、遅刻欠席をしないことが望ましい。

授業計画	
	〔前期〕
1	レッスンガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
3	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
4	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
5	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
6	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
7	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
8	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
9	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
10	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
11	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
12	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
13	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
14	研究テーマにより準備してきた作品の歌唱法の研究
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	研究演奏会（修了演奏会）に向けて選曲準備をはじめる
2	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
3	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
4	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
5	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
6	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
7	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
8	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
9	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
10	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の歌唱法の研究
11	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
12	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
13	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
14	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会・修了演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅰ（V0）						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	X1L137000	科目コード*	IL1370d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドバイスを受け、自分の目標を達成させる。

2. 授業概要

年間30回の個人レッスンによる

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
歌唱時に必要な表現法を、各自、検討して次のレッスンの発表できるように準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

1年次は「研究演奏会」でのテーマに関して各担当教員が評価する
2年次は「修了演奏会」での演奏と修士副論文の内容、口頭試問により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各レッスン担当教員、及び論文担当指導教員がその都度指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかりと決めること。
1回1回のレッスンを、しっかりと積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	〔前期〕
1	レッスンガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
3	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
4	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
5	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
6	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
7	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
8	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
9	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
10	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
11	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
12	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
13	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
14	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	研究演奏会に向けて選曲準備をはじめる
2	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
3	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
4	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
5	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
6	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
7	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
8	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
9	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
10	研究演奏会用に選曲した作品の演奏表現法の研究
11	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
12	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
13	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
14	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅱ（V0）						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード*	XIL137500	科目コード*	IL1375d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドバイスを受け、自分の目標を達成させる。

2. 授業概要

年間30回の個人レッスンによる

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
歌唱時に必要な表現法を、各自、検討して次のレッスンの発表できるように準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

1年次は「研究演奏会」でのテーマに関して各担当教員が評価する
2年次は「修了演奏会」での演奏と修士副論文の内容、口頭試問により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各レッスン担当教員、及び論文担当指導教員がその都度指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかりと決める、
1回1回のレッスンを積み重ねていくことが望ましい

授業計画	
	〔前期〕
1	レッスンガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	研究テーマにより準備してきた作品のディクシヨンの研究
3	研究テーマにより準備してきた作品のディクシヨンの研究
4	研究テーマにより準備してきた作品のディクシヨンの研究
5	研究テーマにより準備してきた作品の演奏法の研究
6	研究テーマにより準備してきた作品の演奏法の研究
7	研究テーマにより準備してきた作品の演奏法の研究
8	研究テーマにより準備してきた作品の表現法の研究
9	研究テーマにより準備してきた作品の表現法の研究
10	研究テーマにより準備してきた作品の表現法の研究
11	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
12	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
13	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
14	研究テーマにより準備してきた作品の演奏、表現法の研究
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	研究演奏会（修了演奏会）に向けて選曲準備をはじめる
2	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品のディクシヨンの研究
3	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品のディクシヨンの研究
4	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品のディクシヨンの研究
5	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏法の研究
6	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏法の研究
7	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏法の研究
8	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏表現法の研究
9	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏表現法の研究
10	研究演奏会（修了演奏会）用に選曲した作品の演奏表現法の研究
11	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
12	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
13	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
14	研究演奏会（修了演奏会）にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会・修了演奏会への仕上げ）

科目名	創作研究Ⅱ（C0）						
代表教員	清水 昭夫	授業コード*	X1L151600	科目コード*	IL1516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

創作研究Ⅱは、前期に20世紀の交響曲と管弦楽曲、後期に現代の多様な編成による楽曲を中心として研究する。

2. 授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）
学年末提出作品（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	〔前期〕
1	ガイダンス 目標の設定
2	楽曲研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
3	楽曲研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
7	書法研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
15	楽譜の作成－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

授業計画	
	[後期]
1	楽曲研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
3	楽曲研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
5	書法研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
6	書法研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
7	書法研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
8	書法研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
15	1年間の総括 楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅱ（C0）						
代表教員	清水 昭夫	授業コード*	X1L157500	科目コード*	IL1575d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。2年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、前期にフーガ書法を研究して完成をめざし、後期にスタイル和声を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

2. 授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）
学年末試験（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『フーガ書法』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O. メシアン著／Leduc社刊）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	授業概要 学習フーガ 主要追拍の書き方
2	作曲演習 7 主要追拍
3	学習フーガ 対唱追拍の書き方
4	作曲演習 8 対唱追拍
5	学習フーガ 平行調追拍の書き方
6	作曲演習 9 平行調追拍
7	学習フーガ 真正追拍の書き方
8	作曲演習 10 真正追拍
9	学習フーガ 結尾部の書き方
10	作曲演習 11 結尾部
11	作曲演習 12 学習フーガのまとめ
12	学習フーガの浄書制作 (4 段譜)
13	学習フーガの浄書制作 (2 台ピアノ版)
14	学習フーガの試演、試聴
15	前期の総括と講評

授業計画	
	[後期]
1	スタイル和声の研究 (J. P. ラモー)
2	J. P. ラモー様式での創作のスケッチ
3	J. P. ラモー様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究 (C. フランク)
5	C. フランク様式での創作のスケッチ
6	C. フランク様式での創作のまとめ
7	スタイル和声の研究 (G. フォーレ)
8	G. フォーレ様式での創作のスケッチ
9	G. フォーレ様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究 (C. ドビュッシー)
11	C. ドビュッシー様式での創作のスケッチ
12	C. ドビュッシー様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究 (M. ラヴェル)
14	M. ラヴェル様式での創作のスケッチ
15	M. ラヴェル様式での創作のまとめ 1年間の総括と講評

科目名	創作制作研究Ⅰ（SC）						
代表教員	前田 康德	授業コード*	X1L1580B0	科目コード*	IL1580d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

創作制作研究は、単に音楽制作スキルの向上が目的ではなく、作品の質向上を図ることが目標である。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%、研究成果に関しては、作品発表も含まれる。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 1（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 2（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 3（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 4（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（小編成）
10	アレンジスコアの制作（各初期設定）
11	アレンジスコアの制作 2（各修正作業）
12	アレンジスコアの制作 3（演奏表現に関する部分を確認）
13	DTMにてシミュレーション 1（トラックの構成とデータ入力）
14	DTMにてシミュレーション 2（ミキシングと各調整）
15	作品の試聴とディスカッション

授業計画	
	〔後期〕 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（2声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）
7	対位的アプローチの導入3（4声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）
11	弦楽四重奏のスコアの完成
12	DTMによるシミュレーション1（トラックの構成とデータ入力）
13	DTMによるシミュレーション2（ペロシティーの調整）
14	DTMによるシミュレーション3（ミキシングと各調整）
15	作品試聴と講評

科目名	創作制作研究Ⅱ（SC）						
代表教員	前田 康德	授業コード*	XIL1585B0	科目コード*	IL1585d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「創作制作研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

創作制作研究は、単に音楽制作スキルの向上が目的ではなく、作品の質向上を図ることが目標である。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%
研究成果に関しては、作品発表も含まれる。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 1（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 2（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 3（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 4（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成 5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（オーケストラ）
10	スコアの制作 1（前半）
11	スコアの制作 2
12	スコアの制作 3（後半）
13	DTMによるシミュレーション 1（初期設定とデータ入力）
14	DTMによるシミュレーション 2（データの修正）
15	DTMによるシミュレーション 3（オートメーションなどミックス作業）

授業計画	
	〔後期〕 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（2声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）
7	対位的アプローチの導入3（3声以上）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半部）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中間部）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半部）
11	ハリウッド的オーケストラのアプローチ1（作品研究）
12	ハリウッド的オーケストラのアプローチ2（代表的なアプローチ）
13	ハリウッド的オーケストラのアプローチ3（簡単な楽曲を制作）
14	シンセサイザーアプローチ4（楽曲の制作とミックス）
15	作品試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅰ（SC）						
代表教員	前田 康德	授業コード	X1L1590B0	科目コード	IL1590d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽音響理論は、研究テーマに必要なスキルの向上を目的とする。また、創作制作研究と連携し作品の質向上に努める。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作技法研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「創作制作研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果 50%、研究態度50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。ここではフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	研究に必要な技術の確認及び学習計画
2	これまでの自己の作品の検証
3	これまでの自己の作品の検証と整理
4	前期の作品制作の計画
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	作品のモチーフを複数作成
8	モチーフの抽出
9	録音素材とモチーフの関連性を検討
10	作品全体の構成を調整
11	楽曲の指導（構成を中心に）
12	楽曲の指導（各セクションのについて）
13	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
14	作品のミックス
15	ミックスの仕上げ

授業計画	
	〔後期〕 後期は前期の反省点を踏まえ、引き続きフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	後期の作品発表に関する計画と確認
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）
11	ミキシング（後半部、オートメーションなど）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（EQなど詳細処理）
14	マスタリング（全体のラウドネスの調整）
15	作品の試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅱ（SC）						
代表教員	前田 康德	授業コード*	XIL1595B0	科目コード*	IL1595d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽音響理論研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽音響理論は、研究テーマに必要なスキルの向上を目的とする。また、創作制作研究と連携し作品の質向上に努める。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作技法研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「創作制作研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果 50%、研究態度50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品についてのディスカッション
2	修了作品と副論文の関係性についての検証
3	前期の作品制作の計画
4	作品の録音素材を選定
5	作品の収録スケジュールの設定
6	作品のモチーフを複数作成
7	モチーフの抽出
8	録音素材とモチーフの関連性を確認
9	作品全体の構成を調整
10	楽曲の指導（構成を中心に）
11	楽曲の指導（各セクションのについて）
12	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
13	作品のミックス
14	ミックスの仕上げ
15	マスタリング作業

授業計画	
	〔後期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品に関する計画と確認（後期作品）
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（EQ処理など）
11	ミキシング（オートメーションなどミックス作業）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（EQ処理など）
14	マスタリング（ラウドネスの調整など）
15	作品の試聴

科目名	副科学研究 1 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	X1L2051C0	科目コード	1L2051d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科学研究 2 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	X1L2052C0	科目コード	1L2052d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科学研究 3 (C0)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード*	X1L2053A0	科目コード*	IL2053d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。
より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。
なお、履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

2. 授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退3回を欠席1回にカウントする。

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調） 基礎
6	スケールの奏法（短調） 基礎
7	練習曲 基礎的な奏法
8	練習曲 表現の工夫
9	練習曲 演奏の仕上げ
10	課題曲 基礎的な奏法
11	課題曲 表現の工夫
12	課題曲 演奏の仕上げ
13	自由曲 基礎的な奏法
14	自由曲 表現の工夫
15	自由曲 演奏の仕上げ 試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科学研究 3 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	X1L2053C0	科目コード	1L2053d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科学研究 4 (C0)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード*	X1L2054A0	科目コード*	IL2054d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。
より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。
なお、履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

2. 授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退3回を欠席1回にカウントする。

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調） 基礎
6	スケールの奏法（短調） 基礎
7	練習曲 基礎的な奏法
8	練習曲 表現の工夫
9	練習曲 演奏の仕上げ
10	課題曲 基礎的な奏法
11	課題曲 表現の工夫
12	課題曲 演奏の仕上げ
13	自由曲 基礎的な奏法
14	自由曲 表現の工夫
15	自由曲 演奏の仕上げ 試験と総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科学研究 4 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	X1L2054C0	科目コード	1L2054d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔半期〕 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	